

石川県こころの健康センター所報

第 45 号

(令和4年度実績)

石川県こころの健康センター

- 2023 -

目 次

I こころの健康センター概要

1 沿 革	1
2 施設の概況	3
3 組織・機構	4
4 業 務	6

II 令和4年度こころの健康センターの活動概要

1 庶務課業務	
(1) 精神障害者保健福祉手帳の交付	8
(2) 自立支援医療費（精神通院医療）支給認定	9
(3) 精神医療審査会	12
2 相談課業務	
(1) 技術指導及び技術援助	13
(2) 教育研修	15
(3) 普及啓発	18
(4) 精神保健福祉相談	20
(5) 組織育成	30
(6) ひきこもり対策推進事業	33
(7) 依存症関連問題指導事業	37
(8) ドメスティック・バイオレンス抑止男性支援事業	40
(9) 自殺予防対策推進事業	41
(10) 子どもの心のケア推進事業	44
(11) 精神障害者地域生活支援事業	52
3 支援課（発達障害支援センター）業務	
(1) 発達障害児（者）及び家族等に対する相談支援・発達支援・就労支援	53
(2) 精神科医による相談事業	56
(3) 青年期グループ活動	57
(4) 就労者グループ活動	57
(5) 親のつどい	57
(6) 関係機関等との調整会議	57
(7) 機関コンサルテーション	58
(8) 個別支援のための調整会議	59
(9) 普及啓発及び研修	60

Ⅲ 資 料

1	精神保健福祉相談状況（電話・来所・訪問）	66
2	普及啓発活動	70
3	関係機関・団体との連携	72
4	集団活動	74
5	こころの健康センター貸出しDVD一覧	75

I こころの健康センター概要

1 沿 革

- 昭和 41 年 10 月 石川県社会福祉会館内に石川県精神衛生センターが開設される。
- 昭和 56 年 11 月 金沢市南新保町ル 3-1（現在地）に新築移転する。
- 12 月 デイ・ケア事業（～平成 25 年度）、乳幼児発達相談事業（～平成 8 年度）を開始する。
- 昭和 57 年 4 月 特定相談指導事業（アルコール関連問題、思春期精神保健に関する相談指導等）を開始する。
- 昭和 58 年 4 月 親子通所センターが石川県中央児童相談所より移管される。
同時に庶務課、相談課、訓練課の課制が施行される。
- 昭和 61 年 4 月 心の健康づくり推進事業を開始する。
- 昭和 63 年 4 月 石川県精神保健センターと名称を変更する。
痴呆性老人通所事業を開始する。（～平成 2 年度）
メンタルヘルス講座を開講する。（～平成 4 年度）
- 平成 元 年 4 月 社会復帰連絡会を開始する。（～平成 5 年度）
- 平成 3 年 4 月 こころの相談ダイヤル事業を開始する。
- 平成 6 年 4 月 こころの健康フェスタ開催事業を開始する。（～平成 10 年度）
- 平成 7 年 7 月 石川県精神保健福祉センターと名称を変更する。
- 平成 8 年 10 月 ピア・カウセリング推進事業を開始する。（～平成 18 年度）
- 平成 13 年 4 月 石川県こころの健康センターと名称を変更する。
ひきこもり当事者グループ（悠友クラブ）を開始する。
ドメスティック・バイオレンス抑止男性支援事業を開始する。
- 平成 14 年 4 月 精神医療審査会、通院患者の公費負担及び精神障害者保健福祉手帳に関する業務が石川県健康福祉部障害保健福祉課より移管される。
ひきこもり家族交流会を開始する。

- 平成 14 年 10 月 住所表示が金沢市鞍月東 2 丁目 6 番地に変更される。
- 平成 17 年 4 月 発達障害支援センターが設置される。
- 平成 18 年 4 月 親子通所センターが閉所される。(訓練課を廃止し、支援課を新設)
- 11 月 自死遺族交流会 (J 交流会) を開始する。
- 平成 20 年 9 月 石川県精神科救急情報センター「いしかわこころの救急ダイヤル」事業を開始する。
- 平成 20 年 9 月 いしかわ子どもの心のケアネットワーク事業を開始する。
- 平成 21 年 5 月 ひきこもり地域支援センターが設置される。
- 平成 21 年 9 月 こころの緊急支援事業 (CRT) を開始する。(～平成 26 年度)
- 平成 22 年 6 月 依存症教室を開始する。
- 平成 23 年 3 月 「こころの健康相談統一ダイヤル」を開始する。
- 平成 24 年 「かけがえのない命を守るネットワークいしかわ」を設立
- 平成 27 年 6 月 依存症家族交流会を開始する。
- 平成 27 年 7 月 依存症再発予防プログラムを開始する。
- 平成 31 年 4 月 石川県依存症相談拠点に選定される。
- 令和 3 年 2 月 「こころの相談ダイヤル」が 24 時間対応となる。

2 施設の概況

(1) 土地

所在地 石川県金沢市鞍月東2丁目6番地 (〒920-8201) TEL 076(238)5761

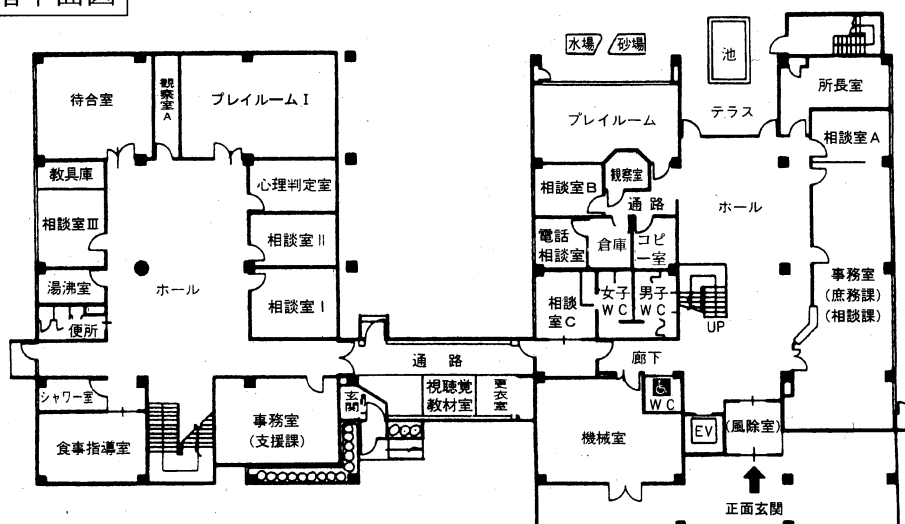
敷地 3,400.14㎡

(2) 建地

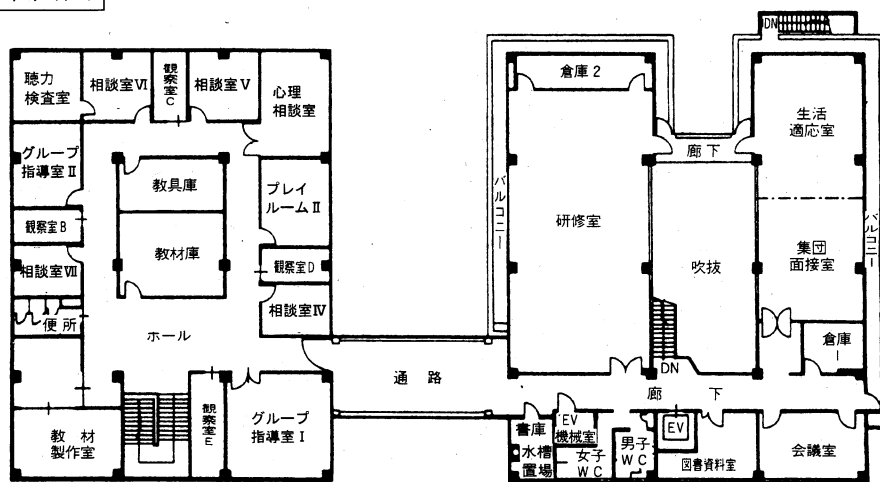
鉄筋コンクリート2階寄棟造 延1,761.26㎡

《館内平面図》

1階平面図



2階平面図

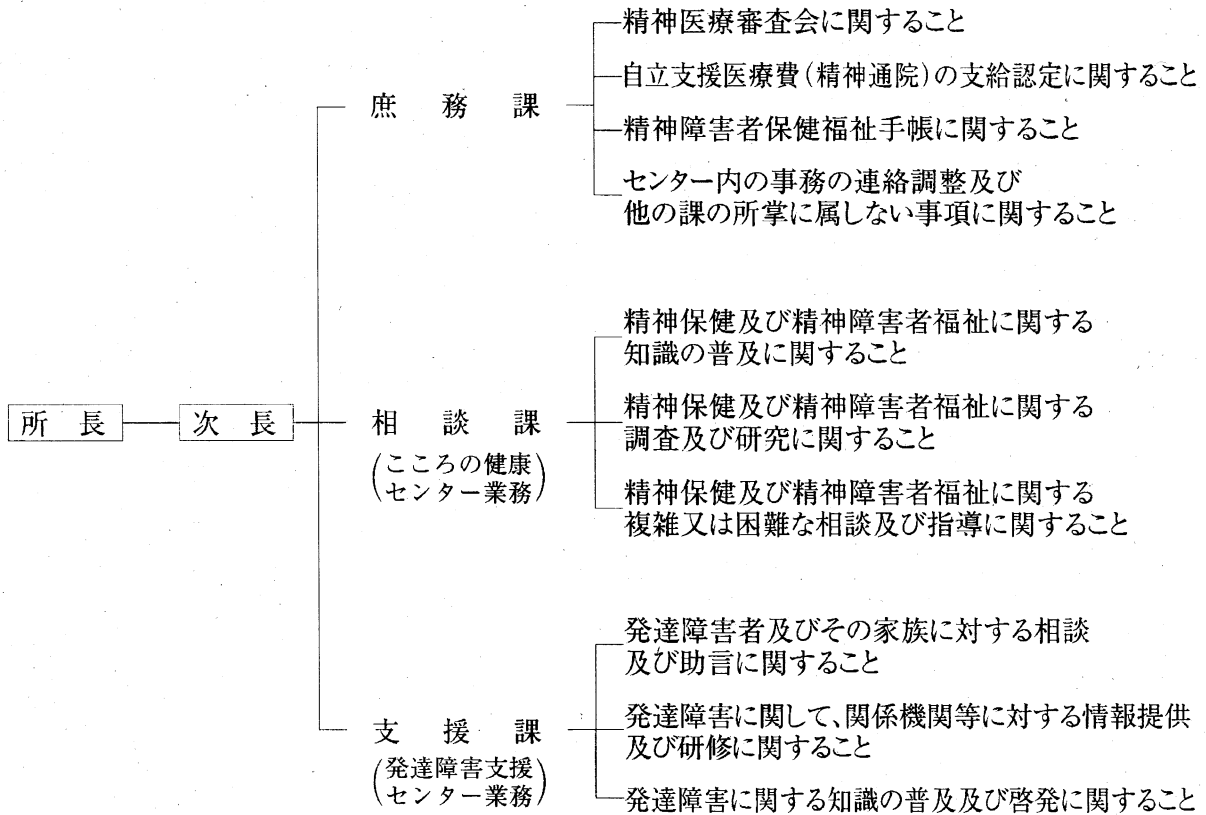


(発達障害支援センター)

(こころの健康センター)

3 組織・機構

(1) 機構



(2) 職種別職員数

(令和5年10月1日現在)

職 種		医 師	保 健 師	助 産 師	看 護 師	精 神 保 健 福 祉 士	福 祉 指 導 員	心 理 判 定 員	電 話 相 談 員	事 務 職 員	事 務 補 助 員	計
職員	常 勤		2			2	1	6		4		15
	兼 務	1										1
	再任用(フル)				1			1				2
	再任用(31h)			1	1							2
任用 會計 年度 職員	常勤的非常勤			1				1		1	1	4
	短時間非常勤 (29h)										1	1
	短時間非常勤 (29h未満)							1	14			15
計		1	2	2	2	2	1	9	14	5	2	40

(3) 課別職員数

(令和5年10月1日現在)

課 名	職 種	職 員				会計年度任用職員			計
		常 勤	兼 務	再任用 (フル)	再任用 (31h)	常勤的 非常勤	短時間 非常勤 (29h)	短時間 非常勤 (29h未満)	
所 長	医 師		1						1
次 長 兼 庶務課長	事 務 職 員	1							1
庶務課	助 産 師				1	1			8
	事 務 職 員	3				1			
	事 務 補 助 員					1	1		
相談課	保 健 師	1							23
	看 護 師			1					
	精神保健福祉士	2							
	心 理 判 定 員	4						1	
	電 話 相 談 員							14	
支援課	保 健 師	1							7
	看 護 師				1				
	福祉指導員	1							
	心 理 判 定 員	2		1		1			
計		15	1	2	2	4	1	15	40

4 業 務

I 庶務課

平成 14 年度に石川県健康福祉部障害保健福祉課から移管された次の業務を行っている。

- (1) 精神医療審査会に関する事務
- (2) 自立支援医療費（精神通院）の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳に関する事務

II 相談課

相談課は精神保健福祉センター業務を担い、「精神保健福祉センター運営要領」（平成 8 年 1 月 19 日健医発第 57 号厚生省保健医療局長通知）により、次の業務を行っている。

(1) 企画立案

地域精神保健福祉を推進するため、県本庁及び関係諸機関に対し、専門的立場から、社会復帰の推進方策や、地域における精神保健福祉施策の計画的推進に関する事項等を含め、精神保健福祉に関する提案、意見具申等をしている。

(2) 技術指導及び技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町及び関係諸機関に対し、専門的立場から、技術指導及び技術援助を実施している。

(3) 教育研修

保健所、市町及び福祉事務所、社会復帰施設その他の関係諸機関で精神保健福祉業務に従事する職員の技術的水準の向上を図るための専門的研修を実施している。

(4) 普及啓発

県民の心の健康づくり対策として、精神保健福祉の知識、精神障害についての正しい知識の普及を行うため、講演会の開催やパンフレット及びパネルの作成をするとともに、ビデオやDVDの貸出をしている。また、保健所、市町及び関係諸機関で開催する講演会や研修会に講師を派遣している。

(5) 精神保健福祉相談

幼児から老人まで、また自分自身のことから家族等に至るまで、広く心の問題に関する面接及び電話相談に応じている。また、精神保健福祉相談の円滑な推進を図るための会議を開催するなど関係諸機関との連携を図っている。

(6) 組織育成

地域精神保健福祉の向上を図るために、地域住民による家族会等の関係団体の育成に努め、活動を支援している。

(7) 調査研究

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と社会経済活動への参加の促進等についての調査研究を実施するとともに、精神保健福祉に関する統計及び資料の収集整備に努めている。

(8) ひきこもり社会参加復帰支援事業

ひきこもり対策を推進するための体制を整備し、ひきこもり本人や家族等を支援することにより、ひきこもり本人の自立を推進し、本人及び家族等の福祉の増進を図っている。

(9) 特定相談指導事業

アルコールや薬物などの特定相談に応じるとともに、それら関連問題の発生を予防するために、正しい知識の普及のための講演会や、当事者家族のための依存症教室や依存症再発予防プログラムを開催している。

(10) ドメスティック・バイオレンス抑止男性支援事業

ドメスティック・バイオレンスに悩む男性のための相談窓口を開設している。

(11) 自殺予防対策推進事業

平成 19 年度に策定された「石川県自殺対策行動計画」に基づき、関係諸機関と連携し、誰もが相談しやすい窓口の設置や自殺予防講演会などの普及啓発、支援者の資質向上のための研修会の開催、未遂者支援体制整備や自死遺族のケアを行っている。

(12) 子どもの心のケア推進事業

子どもの心の問題について、地域で安心して相談できる体制づくりを目指した相談対応や事例検討会、関係者育成セミナーなどを平成 20 年度から実施している。

Ⅲ 支援課（発達障害支援センター）

支援課は発達障害者支援センター業務を担い「発達障害者支援センター運営事業の実施について」（平成 17 年 7 月 8 日障発第 0708004 号厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知）により、次の業務を行っている。

- (1) 発達障害児(者)及びその家族等に対する相談支援
- (2) 発達障害児(者)及びその家族等に対する発達支援
- (3) 発達障害児(者)及びその家族等に対する就労支援
- (4) 関係施設及び関係機関等に対する普及啓発及び研修
(関係施設及び関係機関等との連携)

Ⅱ 令和4年度こころの健康センターの活動概要

1 庶務課業務

(1) 精神障害者保健福祉手帳の交付

ア 制度の概要

一定の精神障害者の状態にあることを証する手段となり、手帳の交付を受けた者に対し、各方面からの協力により各種の支援策が高じられることを促進し、もって精神障害者の社会復帰及び自立と社会参加の促進を図ることを目的として、平成7年に創設された。

イ 対象者

精神疾患（知的障害を除く）を有する者のうち、精神障害のため長期にわたり日常生活又は社会生活への制約がある者。

ウ 障害等級

- 1級 日常生活の用を弁ずることを不能ならしめる程度のもの
- 2級 日常生活が著しい制限を受けるか、又は日常生活に著しい制限を加えることを必要とする程度のもの
- 3級 日常生活若しくは社会生活が制限を受けるか、又は日常生活若しくは社会生活に制限を加えることを必要とする程度のもの

エ 交付手続き

申請書に写真（上半身）と（ア）又は（イ）の書類を添えて、居住地を管轄する市町長を経て、県知事に提出する。

（ア） 医師の診断書

精神障害に係る初診日から6か月を経過した日以後に作成されたもの

（イ） 年金証書等

精神障害を支給事由とする障害者年金または特別障害給付金を現に受給していることを証する書類の写し

オ 審査及び判定

診断書添付による申請の場合、手帳の交付の可否及び障害等級の判定については、精神保健指定医を委員とする石川県自立支援医療（精神通院）等判定会議で行われる。委員は7名（会議はメンバー持ち回りの4名出席で開催）で、令和2年度は21回開催した。

カ 手帳の有効期間

2年間 ※更新申請は有効期限の3か月前から可能

キ 手帳に基づく各種支援策

税制上の優遇措置や生活保護の障害者加算、公共交通機関の運賃割引、公共施設の利用料割引などの支援が受けられる。

表1 精神障害者保健福祉手帳の交付状況

(単位：件)

区 分		計	新 規		更 新				
			診断書	年金	診断書	年金			
平成 30年度	申請	4,556	2,299	2,257	865	437	1,434	1,820	
	交付	1級	266	121	145	37	30	84	115
		2級	3,773	1,880	1,893	701	361	1,179	1,532
		3級	495	290	205	120	41	170	164
		計	4,534	2,291	2,243	858	432	1,433	1,811
令和 元年度	申請	4,787	2,524	2,263	866	418	1,658	1,845	
	交付	1級	269	130	139	31	31	99	108
		2級	3,974	2,055	1,919	693	352	1,362	1,567
		3級	513	332	181	137	29	195	152
		計	4,756	2,517	2,239	861	412	1,656	1,827
令和 2年度	申請	4,842	2,543	2,299	841	315	1,702	1,984	
	交付	1級	304	125	179	37	37	88	142
		2級	3,986	2,062	1,924	669	244	1,393	1,680
		3級	518	345	173	129	30	216	143
		計	4,808	2,532	2,276	835	311	1,697	1,965
令和 3年度	申請	5,574	2,993	2,581	1,019	437	1,974	2,144	
	交付	1級	280	122	158	31	30	91	128
		2級	4,653	2,481	2,172	844	354	1,637	1,818
		3級	605	386	219	142	45	244	174
		計	5,538	2,989	2,549	1,017	429	1,972	2,120
令和 4年度	申請	5,660	2,859	2,801	944	385	1,915	2,416	
	交付	1級	332	118	214	27	24	91	190
		2級	4,688	2,311	2,377	766	331	1,545	2,046
		3級	607	423	184	145	24	278	160
		計	5,627	2,852	2,775	938	379	1,914	2,396

(2) 自立支援医療費(精神通院医療)支給認定

ア 制度の概要

障害者等が、その心身の障害の軽減を図り、自立した日常生活を営むために必要な医療を受けるに際して、その医療費の一部を公費で負担する制度である。即ち、医療費に対して各医療保険制度が適用された後、患者の自己負担額を医療費の1割とし(ただし、世帯の所得に応じて負担上限月額の設定あり)、残りを公費負担とする。

イ 対象者

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第5条に定める精神疾患を有する者で、通院による精神医療を継続的に必要とする程度の病状にある者。また、症状が殆ど消失している者であっても、障害の程度が軽減している状態を維持し、又は障害の再発を予防するために入院によらない治療を続ける必要がある場合も対象となる。

ウ 申請手続き

申請書に(ア)又は(イ)の場合における書類を添えて、居住地を管轄する市町長を経て、県知事に提出する。

(ア) 支給認定の申請のみを行う場合

自立支援医療（精神通院医療）の診断書、被保険者証など医療保険の加入関係を示すもの、受診者の属する「世帯」の所得の状況等が確認できる資料

※高額治療継続者については「重度かつ継続」に関する意見書

(イ) 手帳の新規交付又は再交付の申請と併せて支給認定の申請を行う場合

精神障害者保健福祉手帳用の診断書及び治療の投薬内容がわかる手帳用診断書投薬内容届、被保険者証など医療保険の加入関係を示すもの、受診者の属する「世帯」の所得の状況等が確認できる資料

※高額治療継続者については「重度かつ継続」に関する意見書

エ 支給認定

精神通院医療の要否については、石川県自立支援医療（精神通院）等判定会議で判定が行われ、県知事はその結果を受けて支給認定を行うかどうかを決定する。

オ 支給認定の有効期間

1年間 ※更新申請は有効期限の3か月前から可能

カ 受給者証の交付

支給認定が行われた申請者に対し、指定医療機関や自己負担上限月額、有効期間等を記載した自立支援医療受給者証（精神通院）を交付する。

表2 自立支援医療費（精神通院医療）の支給認定状況 (単位：件)

年度	計	保険者別内訳				
		被用者 保険本人	被用者 保険家族	国民健康 保険	生活 保護者	その他
平成30	16,859	3,635	3,449	7,291	2,215	269
令和元	18,135	4,068	3,704	7,868	1,781	714
令和2	18,800	4,213	3,758	7,909	2,559	361
令和3	17,771	4,096	3,590	7,472	2,341	272
令和4	19,347	4,671	3,884	7,844	2,616	332

表3 手帳所持者数及び支給認定者数の各年度末推移

年 度	手 帳 所 持 者 数				支給認定者数
	1 級	2 級	3 級	計	
平成25	578	4,683	721	5,982	13,532
平成26	532	5,070	814	6,416	14,074
平成27	538	5,475	911	6,924	14,577
平成28	518	5,964	999	7,481	15,154
平成29	527	6,526	1,031	8,084	15,656
平成30	542	7,120	1,024	8,686	16,220
令和元	585	8,081	1,104	9,770	18,053
令和2	567	8,111	1,074	9,752	18,813
令和3	587	8,601	1,135	10,323	17,642
令和4	591	9,061	1,197	10,849	18,255

表4 市町別手帳所持者数及び支給認定者数（令和5年3月31日現在）

区 分		加賀市	小松市	能美市	川北町	白山市	野々市市	金沢市	かほく市	津幡町	内灘町
手帳	1級	29	54	22	3	41	22	305	10	15	11
	2級	418	655	351	36	897	403	4,301	283	244	211
	3級	88	137	54	4	132	74	459	38	25	32
	計	535	846	427	43	1,070	499	5,065	331	284	254
通 院		987	1,384	644	60	1,603	798	8,409	571	518	385
区 分		羽咋市	志賀町	宝達志水町	七尾市	中能登町	輪島市	穴水町	能登町	珠洲市	合計
手帳	1級	8	5	10	22	4	10	1	11	8	591
	2級	131	98	77	425	131	160	58	118	64	9,061
	3級	19	14	14	51	24	15	1	9	7	1,197
	計	158	117	101	498	159	185	60	138	79	10,849
通 院		321	237	187	967	299	364	145	214	162	18,255

(3) 精神医療審査会

ア 設置の根拠法令

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）第 12 条

イ 審査会の業務

病院からの次の病状報告や精神障害者の退院請求等に対して入院継続の要否又は処遇の適否を審査する。

(ア) 措置入院者の定期病状報告、医療保護入院者の定期病状報告、医療保護入院者退院支援審議記録、医療保護入院者の入院届、入院診療計画書

(イ) 入院中の者又はその家族等からの退院請求又は処遇改善の請求

ウ 委員構成

委員 15 人（医療委員 9 人、法律家委員 3 人、有識者委員 3 人）

予備委員 6 名（医療予備委員 2 名 法律家予備委員 2 名 有識者予備委員 2 名）

エ 合議体

審査会には 5 人で構成する合議体を 3 つ設置し、審査は月 1 回交互に行う。

オ 令和 4 年度の開催実績

審査会 12 回、全体会議 1 回

表 5 精神医療審査会の審査状況

年 度	退院等の請求			措置入院者の定期病状報告		医療保護入院者の定期病状報告		医療保護入院者の入院届		審査件数合計	
	審査件数	面接件数	入院形態の変更等	審査件数	入院形態の変更等	審査件数	入院形態の変更等	審査件数	入院形態の変更等	審査件数	入院形態の変更等
平成 25	34	25	—	30	—	1,287	—	2,577	—	3,928	—
平成 26	29	29	—	25	—	1,294	—	2,683	—	4,031	—
平成 27	39	37	—	27	—	1,235	—	2,833	—	4,134	—
平成 28	25	23	—	26	—	1,260	—	2,869	—	4,180	—
平成 29	32	30	2	28	—	1,214	—	2,877	—	4,151	2
平成 30	27	23	4	34	—	1,164	—	2,873	—	4,098	4
令和 元	21	20	3	17	—	1,174	—	3,027	—	4,239	3
令和 2	25	24	5	32	—	1,205	—	2,855	—	4,117	5
令和 3	29	26	5	20	—	1,230	—	2,787	—	4,066	5
令和 4	33	32	1	19	—	1,213	—	2,832	—	4,097	1

注)入院形態の変更等の欄は、審査会において退院が適当又は他の入院形態が適当との意見が示された件数

2 相談課業務

(1) 技術指導及び技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するために、保健所及び関係機関に対し職員等を派遣するなど専門的な立場から技術援助を行っている。

令和4年度の技術援助回数は552回で、支援内容としては、関係機関との連絡調整が232回(42.0%)と一番多かった(表1)。

保健所(県保健福祉センター及び金沢市福祉健康センター、以下「保健所」とする。)には40回(7.2%)で、保健所以外の行政・教育・福祉等の関係機関には512回(92.7%)であった(表2、表3)。

表1 技術援助回数

区分	計	事例 検討会	指 相 談 訪 導 問	健 知 活 識 動 普 保 及 ・ 保	参 会 議 へ の 画	連 関 絡 係 調 機 整 関 との	動 患 等 者 の ク 援 ラ 助 プ 活	・ 学 実 生 習 教 育	そ 情 の 報 提 提 供 ・ 他
合 計	552	1	60	26	83	232	0	4	146

ア 保健所

令和4年度における保健所からの要請による技術援助は40回で、関係機関との連絡調整が19回と一番多く、次いで会議への参画が9回であった(表2)。

表2 保健所への技術援助及び技術指導回数

区分	計	事 例 検 討 会	相 談 訪 問 指 導	知 識 普 及 ・ 保 健 活 動	会 議 へ の 参 画	関 係 機 関 と の 連 絡 調 整	患 者 ク ラ ブ 活 動 等 の 援 助	学 生 教 育 ・ 実 習	情 報 提 供 ・ そ の 他
南加賀保健福祉センター	8	0	2	0	3	3	0	0	0
石川中央保健福祉センター	7	0	3	0	0	4	0	0	0
能登中部保健福祉センター	5	0	0	0	1	3	0	0	1
能登北部保健福祉センター	8	0	1	0	3	2	0	0	2
金沢市福祉健康センター	12	0	1	0	2	7	0	0	2
合 計	40	0	7	0	9	19	0	0	5

イ 関係機関（保健所を除く）

令和4年度の保健所以外の行政や教育、医療機関等の関係機関への技術援助は512回で、関係機関との連絡調整が203回、次いで情報提供・その他が141回であった（表3）。

関係機関の区分別では、国・県が184回と一番多く、次いで医療への技術援助が89回、市町が62回の順になっている（表3）。

表3 関係機関（保健所を除く）への技術援助及び技術指導回数

区 分	計	事 例 検討会	相 談 訪 問 指 導	知 識 普 及 ・ 保 健 活 動	会 議 へ の 参 画	関 係 機 関 と の 連 絡 調 整	患 者 ク ラ ブ 活 動 等 の 支 援	学 生 教 育 ・ 実 習	情 報 提 供 ・ そ の 他
国 ・ 県	184	0	6	8	25	71	0	0	74
市 町	62	1	7	4	3	32	0	0	15
医 療	89	0	16	1	6	47	0	0	19
福 祉	9	0	3	2	0	2	0	0	2
教 育	33	0	7	6	2	9	0	4	5
労 働	24	0	3	0	2	17	0	0	2
各種精神保健団体	5	0	1	2	0	2	0	0	0
障害者支援施設等	32	0	7	0	1	19	0	0	5
司 法	51	0	2	1	33	9	0	0	6
そ の 他	23	0	1	2	2	5	0	0	13
合 計	512	1	53	26	74	203	0	4	141

(2) 教育研修

令和4年度は、保健所および精神保健福祉に関する諸機関の職員を対象にした研修会を21回開催した。

ア 精神保健福祉医療担当者研修会

地域における精神保健福祉医療業務が円滑に推進されるように、保健福祉医療関係機関の職員で精神保健福祉の担当として初任者を対象に、相談に係る基礎知識の習得や技術の向上を図ることを目的にオンライン形式で研修を実施した。

日時	内 容	参加数
令和4年8月26日 (金)	講義①「精神障害者に関する基礎知識と支援～うつと自殺対策を中心に～」 こころの健康センター 所長 角田 雅彦	15人
	講義②「高次脳機能障害の相談について」 リハビリテーションセンター 支援課担当課長 原 みどり	
	講義③「精神保健福祉センターにおける支援（1）」 こころの健康センター 相談課職員	
	講義④「精神保健福祉センターにおける支援（2）」 こころの健康センター 相談課職員	
令和4年8月31日 (水)	講義①「ひきこもりとその対策について」 こころの健康センター 所長 角田 雅彦 相談課職員	16人
	講義②「精神保健福祉法における緊急対応について」 石川県障害保健福祉課 専門員 乙部 創	
	講義③「発達障害支援センターの活動概要と体制整備について」 発達障害支援センター 支援課長 酒井 伸吾	

イ 石川県災害派遣精神医療チーム（DPAT）研修会

石川県災害派遣精神医療チーム（DPAT）として活動する精神科医療機関の従事者を対象に、平時から、必要な知識や活動手法やケア技術、情報伝達等の訓練により、それらを習得し、災害発生に備えた精神医療の活動体制を構築することを目的に研修会を実施した。本年度は講義を動画配信による視聴形式とし、机上訓練は集合形式とした。

令和4年度 石川DPAT研修プログラム

(1) 講義 ※動画視聴による研修(令和4年月12月1日～12月28日まで) 受講者:12名

プログラム内容	講師及び担当者
I (1)「災害医療概論とDPATの活動理念」	厚労省DPAT事務局
(2)「DPATのTTT」	福井大学医学部精神医学 大森 一郎氏
II 県内の各種体制について	石川県危機対策課
(1)石川県の防災計画	
(2)石川県の精神保健医療提供体制	石川県障害保健福祉課(R5撮影)
III「DMATと災害医療コーディネーター」	石川DMAT統括 石川県立中央病院救急救命センター長 明星 康裕氏
IV「熊本地震におけるDPAT活動を通して感じたこと」	DPAT先遣隊 石川県立こころの病院診療部医長 神川 繁利氏
V (1)「ロジスティクス概論」	厚労省DPAT事務局
(2)「災害時の情報管理」	静岡県立こころの医療センター
VI 「災害医療情報支援システム(EMIS、J-SPEED 等)」	岡庭 隆門氏
VII(1)「DPATの被災病院支援」	厚労省DPAT事務局
(2)「DPATの地域支援」	福井大学医学部精神医学 大森 一郎氏

(2) 机上訓練: 令和4年3月21日(火・祝) 13:00～17:00

※集合研修(会場:石川県こころの健康センター) 参加者:21名

時間	プログラム内容	講師及び担当者
12:30～	受付	
13:00～	開会・挨拶・オリエンテーション	事務局
13:05～(80分)	I 演習(机上訓練1回目) ※自県で災害が発生した場合を想定して、3グループに分かれ訓練実施。 ①活動拠点本部 ②地域支援DPAT ③病院支援DPAT	<ファシリテーター> 厚労省DPAT事務局 福井大学医学部精神医学 大森 一郎氏
14:25～(10分)	休憩(10分)	
14:35～(70分)	II 演習(机上訓練2回目) ①～③のグループを交替	静岡県立こころの医療センター 岡庭 隆門氏 山根 太陽氏
15:45～(10分)	休憩(10分)	
15:55～(60分)	III 演習(机上訓練3回目) ①～③のグループを交替	
16:55～17:00	閉会 ※修了証書は後日郵送	

ウ ひきこもり対策推進事業

(詳細は P 3 3 ~ 3 6 参照)

(ア) ひきこもり対策地域ネットワーク会議 開催回数 3 回、参加者 8 7 人

(イ) ひきこもり相談・支援者研修会 開催回数 3 回、参加者 1 0 5 人

エ 依存症関連問題指導事業

(詳細は P 3 7 ~ 3 9 参照)

依存症研修会 (開催回数 1 回、参加人数 1 7 人)

オ 自殺予防対策推進事業

(詳細は P 4 1 ~ 4 4 参照)

(ア) 包括的支援のための多職種事例検討会 新型コロナウイルス感染症の感染
拡大防止のため開催中止

(イ) ゲートキーパー指導者研修会 開催回数 1 回、参加者数 6 9 人

(ウ) 救急告示医療機関職員等に対する研修会 新型コロナウイルス感染症の感染
拡大防止のため開催中止

カ 子どもの心のケア推進事業 (詳細は P 4 3 ~ 5 0 参照)

(ア) 子どもの心の支援者研修会

a 子どものこころの問題に携わる関係者育成セミナー

開催回数 5 回、参加者数 5 0 1 人

b 発達障害等早期支援関係者セミナー

開催回数 1 回、参加者数 7 7 人

(イ) 子どものこころの支援者事例検討会

開催回数 4 回、参加者数 1 4 0 人

キ 精神障害者地域生活支援事業

(詳細は P 5 1 参照)

ピアサポーター養成研修会 (開催回数 1 回、参加者数 2 8 人)

(3) 普及啓発

一般県民等を対象として、精神保健福祉や心の健康に関する理解を深め、地域社会における精神保健福祉活動の推進を図ることを目的として、講演活動や各種団体などが開催する研修会への講師派遣、「センターだより」等の発行やホームページの作成、マスコミを通じての広報活動等、普及啓発を実施した。

ア 公開講演会

(ア) こころの健康づくり講演会（自殺予防対策推進事業（P41）に掲載）

(イ) ひきこもり公開講演会（ひきこもり対策推進事業（P36）に掲載）

イ 講師を派遣した講演会

	依頼機関名	内 容	回数	参加人数
県	石川県人事課	新任課長補佐研修	1	45人
	石川県人事課	新任係長研修	1	126人
	石川県競馬事務局	ギャンブル等依存について	1	8人
	石川県消防学校	メンタルヘルスについて	2	52人
	石川県市町村職員研修所	新任課長補佐研修	1	46人
	石川県教育委員会	学校に行けない子供について考える会	2	70人
	石川県社会福祉協議会	生活困窮者自立支援制度担当者研修会	1	45人
市町	金沢市元町福祉健康センター	講演「不登校・ひきこもりの理解と対応」	1	154人
	金沢市民生委員児童委員協議会	講義「子どもの命を守る～自殺予防の取組みについて～」	1	100人
	小松市教育委員会	小松市生徒指導教員研修会	1	75人
	加賀市健康課	講義「SOSの出し方に関する教育」	1	36人
	白山市市民相談室	白山市相談員研修会	1	100人
教育	石川県立総合看護専門学校	ゲートキーパー研修	2	50人
	金沢医科大学	ゲートキーパー講座	1	9人
国	金沢保護観察所	薬物依存について	1	6人

	依頼機関名	内 容	回数	参加人数
その他	全国ギャンブル依存症家族の会	ギャンブル依存症 in いしかわ	1	100人
	七尾市・中能登町地域自立支援協議会	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて	1	15人
	子ども夢フォーラム	チャイルドライン受け手養成講座	1	15人
	大塚製薬	高齢者のアルコール問題	1	88人
	養護教員健康相談活動事例研究会	県内高校養護教諭研修会	1	20人
計			23	1160人

ウ 自殺予防街頭キャンペーン (詳細はP40参照)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、本年度は中止となった。

エ 障害者ふれあいフェスティバルにおける福祉相談コーナーの設置

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、本年度はオンライン開催となり、福祉相談コーナーの設置はしなかった。

オ 普及啓発資料

こころの健康センターの事業の紹介や精神保健の動向について発行した。

媒体	内 容	発行部数
センターだより	第93号 特集「DV(ドメスティックバイオレンス)加害の心理と対処法～自分も他者も大切にする生き方への再生～」	1000部

カ 普及啓発教材の貸出

病院や地域関係機関にビデオ、パネル等の貸し出しを行っている。令和4年度は依頼がなかった。

キ 関係機関情報の作成

石川県内の精神保健福祉に関する社会資源の情報をまとめ、ホームページに掲載した。
アドレス <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/fukusi/kokoro-home/kokoro/shiryuu.html>

(4) 精神保健福祉相談

令和4年度の精神保健福祉相談延件数は、23,883件で、電話相談が22,892件(95.9%)、来所相談が991件(4.1%)であった。来所相談の初回相談は198件であった。そのうち新来相談は100件であった。また訪問等は、30件実施した。(表1、表2)。

性別では、「男」が12,471件(52.2%)、「女」が11,412件(47.8%)であった(表1)。

年齢別では、「50～59歳」が4,926件(20.6%)と最も多く、次いで「30～39歳」が4,607件(19.3%)、「40～49歳」が4,129件(17.3%)となっている(表3、図1)。

相談区分では、「心の健康づくり」が17,520件(73.3%)で最も多く、次いで「社会復帰」が3,760件、「その他」が1,448件の順であった。また相談区分をキーワードにより再掲(複数回答)すると、ひきこもりが531件と最も多く、次いで自殺関連が373件となっている(表4)。

ア 電話相談

電話相談は、当センターへの電話相談及び専用電話「こころの相談ダイヤル」への相談を合わせたもので、令和4年度の相談件数(延件数)は22,892件であり、性別で見ると男性11,763件(51.4%)、女性11,129件(48.6%)と、男性の方が634件多かった(表1)。

年齢別では、「50～59歳」が4,834件(21.1%)と最も多く、次いで「30～39歳」が4,328件、「40～49歳」が4,028件の順であった(表3、図1)。

相談区分別では、「心の健康づくり」が16,912件(73.9%)で最も多く、次いで「社会復帰」が3,667件、「その他」が1,407件の順であった。また相談区分をキーワードにより再掲(複数回答)すると、「自殺関連」が267件(1.2%)と最も多く、次いで「ひきこもり」が162件であった(表4)。

内容別相談件数では「日常生活に関する心配・不安」が9,279件(40.5%)と最も多く、次いで「対人関係の悩み」2,956件(12.9%)、「仕事・職場の悩み」2,203件(9.6%)の順であった(表6、図2)。

電話相談における対応状況としては、「傾聴・助言」が22,024件(96.2%)と最も多く、次いで「他機関紹介」が490件(2.1%)、「来所相談の勧奨」が197件(0.9%)であった(表6)。

イ 来所相談

来所相談は、原則として予約制で、相談課職員が対応しており、必要に応じ所長または嘱託医(精神科医・小児科医)の診察を実施している。

令和4年度の来所相談件数(延)は991件であった(表1)。

年齢別では、「30～39歳」が279件(28.2%)と最も多く、次いで「20～29歳」が

237件、「20歳未満」が201件の順であった（表3、図1）。

相談区分別では、「心の健康づくり」が608件（61.4%）で最も多く、次いで「社会復帰」が93件「思春期」が92件の順であった。相談区分をキーワードにより再掲（複数回答）すると、「自殺関連」が267件（26.9%）と最も多く、次いで「ひきこもり」が162件であった（表4）。

内容別相談件数では、「ひきこもり」が333件（33.6%）と最も多く、次いで「暴力」140件で、「不登校・学校不適応」が103件の順であった（表5、図2）。

新来相談の来所経路は、男女ともホームページや口コミにより「直接」来所してくる場合が70件（70.7%）と一番多い。次いで「その他」が7件、「施設・学校」が6件、「その他の相談機関」が6件の順であった（表7）。

来所相談における対応状況としては、「助言」が797件（80.4%）と最も多かった。来所者への診察162件（うち「診断書発行」は3件）、検査は2件を実施している（表8）。また相談結果の紹介先として、「医療機関」が22件であった（表9）。

来所相談における診断状況をみると、「不明（医師の診察を受けていない）」が495件（49.9%）であった。診断された方は、「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」が108件（10.9%）と最も多く、次いで「気分（感情）障害」が91件（9.2%）、「心理的発達の障害」が69件（7.0%）の順であった（表10）。

表1 精神保健福祉相談実施状況

	男		女		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%
電話相談	11,763	51.4%	11,129	48.6%	22,892	95.9%
来所相談	708	71.4%	283	28.6%	991	4.1%
初回相談	134	67.7%	64	32.3%	198	0.8%
新来	63	63.0%	37	37.0%	100	0.4%
継続相談	574	72.4%	219	27.6%	793	3.3%
計	12,471	52.2%	11,412	47.8%	23,883	100.0%

※件数は延件数

※新来は初めて来所したもの

表2 精神保健福祉相談件数の推移

年度	電話相談	来所相談	計	訪問指導
H30	6,991	1,219 (190)	8,210	18
R1	8,355	1,339 (150)	9,694	30
R2	9,781	1,229 (333)	11,010	109
R3	18,661	1,554 (268)	20,215	166
R4	22,892	991 (198)	23,883	30

注：（ ）は内数で新来相談件数

※件数は延件数

※訪問指導は来所相談の内数

表3 年齢別相談件数

年齢区分	相 談 区 分				合 計	
	電 話 相 談		来 所 相 談			
	件数	%	件数	%	件数	%
20歳未満	517	2.3%	201	20.3%	718	3.0%
20～29歳	3,347	14.6%	237	23.9%	3584	15.0%
30～39歳	4,328	18.9%	279	28.2%	4607	19.3%
40～49歳	4,028	17.6%	101	10.2%	4129	17.3%
50～59歳	4,834	21.1%	92	9.3%	4926	20.6%
60～69歳	2,955	12.9%	42	4.2%	2997	12.5%
70～79歳	259	1.1%	7	0.7%	266	1.1%
80歳以上	40	0.2%	1	0.1%	41	0.2%
不 明	2,584	11.3%	31	3.1%	2615	10.9%
合 計	22,892	100.0%	991	100.0%	23883	100.0%

※件数は延件数

図1 精神保健福祉相談における年齢別内訳

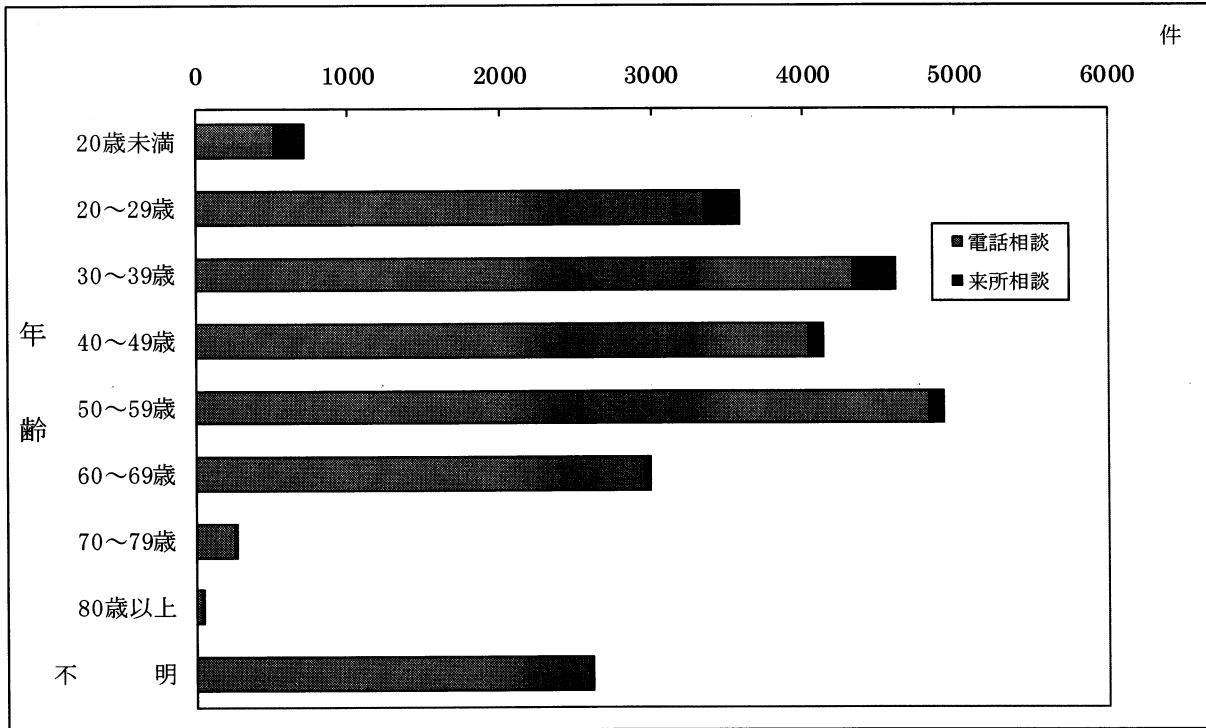


表4 相談区分別内訳

相談区分	令和4年度				令和3年度	
	電話相談	来所相談	(新来)※	合計	相談合計	
老人精神保健	102	1	1	103	91	
社会復帰	3,667	93	6	3,760	5,250	
アルコール	70	6	4	76	69	
薬物	14	4	1	18	27	
ギャンブル	48	57	7	105	188	
ゲーム	12	11	2	23	35	
思春期 ※※	135	92	10	227	356	
心の健康づくり	16,912	608	55	17,520	11,043	
うつ・うつ状態	490	77	7	567	1376	
摂食障害	34	1	1	35	20	
てんかん	1	0	0	1	2	
その他	1,407	41	6	1,448	1758	
計	22,892	991	100	23,883	20,215	
再掲 (*)	ひきこもり	162	369	17	531	714
	発達障害	65	138	10	203	398
	自殺	267	106	13	373	410
	(再)自死遺族	33	78	4	111	116
	犯罪被害	0	0	0	0	3
	災害	0	0	0	0	0

注：メール相談を除く

※ 来所相談の（新来（初めて来所したもの））は内数

※※思春期は、12歳～18歳の者

* 再掲は、複数の区分に該当する場合は、それぞれに計上

表5 内容別相談件数

相 談 内 容	相 談 区 分				合 計	
	電 話 相 談		来 所 相 談		件数	%
	件数	%	件数 (実)	%		
経 済 ・ 貧 困 問 題	272	1.2%	0 (0)	0.0%	272	1%
不 登 校 ・ 学 校 不 適 応	110	0.5%	103 (11)	10.4%	213	1%
ひ き こ も り	191	0.8%	333 (46)	33.6%	524	2%
非 行 ・ 反 社 会 的 問 題	17	0.1%	16 (3)	1.6%	33	0%
暴 力	276	1.2%	140 (24)	14.1%	416	2%
家 庭 内 の 問 題	1,755	7.7%	40 (11)	4.0%	1,795	8%
出 産 ・ 育 児 上 の 悩 み	64	0.3%	0 (0)	0.0%	64	0%
更 年 期 の 悩 み	6	0.0%	0 (0)	0.0%	6	0%
高 齢 者 の 問 題	62	0.3%	0 (0)	0.0%	62	0%
仕 事 ・ 職 場 の 悩 み	2,203	9.6%	24 (13)	2.4%	2,227	9%
身 体 上 の 悩 み	850	3.7%	17 (2)	1.7%	867	4%
摂 食 障 害	37	0.2%	2 (2)	0.2%	39	0%
性 格 ・ 行 動 上 の 悩 み	1,897	8.3%	95 (20)	9.6%	1,992	8%
対 人 関 係 上 の 悩 み	2,956	12.9%	18 (4)	1.8%	2,974	12%
ア ル コ ー ル 問 題	69	0.3%	9 (4)	0.9%	78	0%
薬 物 問 題	15	0.1%	4 (2)	0.4%	19	0%
ギ ャ ン ブ ル 問 題	49	0.2%	57 (18)	5.8%	106	0%
ア ル コ ー ル ・ 薬 物 ・ ギ ャ ン ブ ル 以 外 の 依 存	32	0.1%	2 (1)	0.2%	34	0%
性 に つ い て の 悩 み	83	0.4%	8 (1)	0.8%	91	0%
日 常 生 活 に 関 す る 心 配 ・ 不 安	9,279	40.5%	21 (4)	2.1%	9,300	39%
精 神 疾 患 に 関 す る 問 題	1,616	7.1%	74 (25)	7.5%	1,690	7%
情 報 提 供	79	0.3%	0 (0)	0.0%	79	0%
そ の 他	974	4.3%	28 (7)	2.8%	1,002	4%
合 計	22,892	100.0%	991 (198)	100.0%	23,883	100%

件数は延件数(実件数)

図2 内容別相談件数

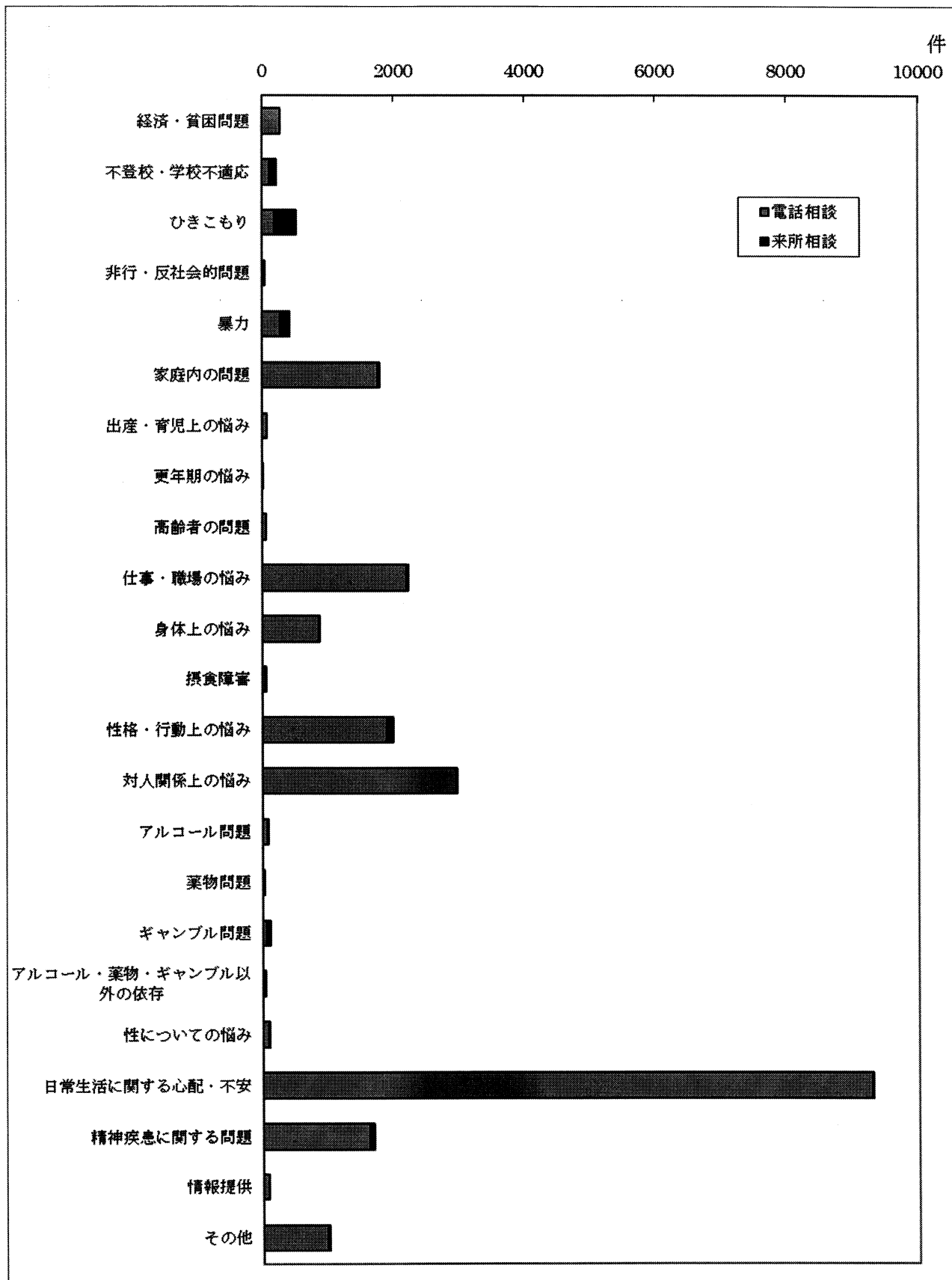


表6 電話相談における対応状況

区分	傾聴・助言	来所相談勧奨	他機関紹介	その他	合計
件数	22,024	197	490	181	22,892
%	96.2%	0.9%	2.1%	0.8%	100%

件数は延件数

表7 新規来所相談における来所経路

経路	性別	男	女	合計
直接（ホームページ等含む）		40	30	70
医療機関（精神科）		2	0	2
医療機関（一般科）		0	0	0
保健所		1	0	1
児童相談所		0	0	0
福祉事務所		0	0	0
児童・民生委員		0	0	0
施設・学校		4	2	6
ハローワーク （職業安定所・ジョブカフェ石川）		3	0	3
警察		1	0	1
県庁・市町役場		2	2	4
その他の相談機関		6	0	6
こころの相談ダイヤル		0	0	0
その他の電話相談		0	0	0
その他		4	3	7
合計		63	37	100

件数は延件数

表8 来所相談における対応状況

対応状況	来所者区分	初 回 相 談 (実件数)		継 続 相 談 (延件数)	合 計
			新 来		
助 言 ・ 継 続 面 談		152 ^件	70 ^件	645 ^件	797 ^件
診 察		36	29	126	162
	(内) 診 断 書 発 行	2	1	1	3
検 査 等 ※		0	0	2	2
訪 問		10	1	20	30
合 計		198	100	793	991

※知能・心理検査、検査結果の説明などを行ったもの

表9 来所相談における関係機関への紹介先

対応状況	来所者区分	初 回 相 談 (実件数)		継 続 相 談 (延件数)	合 計
			新 来		
医 療 機 関		10 ^件	8 ^件	12 ^件	22 ^件
保 健 所		0	0	0	0
福 祉 機 関		1	1	2	3
労 働 機 関		3	2	1	4
教 育 機 関		0	0	26	26
そ の 他		0	0	2	2
合 計		14	11	43	57

表 1 0 来所相談における診断状況

診断名	来所者区分		継続相談 (延件数)	合計	
	初回相談 (実件数)	新 来			
症状性を含む器質性精神障害	0 件	0 件	0 件	0 件	0.0 %
精神作用物質使用による 精神及び行動の障害	4	3	3	7	0.7
統合失調症、統合失調症型障害 及び妄想性障害	7	1	11	18	1.8
気分（感情）障害	14	5	77	91	9.2
神経症性障害、ストレス関連障害 及び身体表現性障害	18	9	90	108	10.9
生理的障害及び身体的要因に関連し た行動症候群	1	1	0	1	0.1
成人の人格及び行動の障害	3	0	11	14	1.4
知的障害（精神遅滞）	3	0	36	39	3.9
心理的発達障害	12	4	57	69	7.0
小児期及び青年期に通常発症する 行動及び情緒の障害	0	0	0	0	0.0
神経疾患等	1	1	0	1	0.1
てんかん	0	0	0	0	0.0
診断保留	21	8	127	148	14.9
不明	114	68	381	495	49.9
合計	198	100	793	991	100.0

(5) 組織育成

令和4年度に、当センターが直接かかわりをもった組織は、石川県精神保健福祉家族会連合会、石川県精神障害者支援事業所連絡会、石川県メンタルヘルスボランティア連絡協議会、石川県精神保健福祉協会、依存症関連自助グループの各団体である。

それぞれに対する支援の回数、参加人数は表1のとおりである。

表1 協力組織への支援

対 象	回 数
石川県精神保健福祉家族会連合会	9
石川県精神障害者支援事業所連絡会	4
石川県メンタルヘルスボランティア連絡協議会	5
石川県精神保健福祉協会	4
依存症関連自助グループ	46
合 計	68

ア 精神障害者家族会

(ア) 石川県精神保健福祉家族会連合会 (石家連)

精神障害者家族会は、昭和48年から石川県内の保健所単位に地域家族会が結成され昭和49年2月に10家族会による連合会が発足した。令和2年4月より名称を石川県精神保健福祉家族会連合会に変更した。病院家族会の参加や地域家族会の統合等により、令和4年度は、9家族会で、会員は90名である。

石家連への支援は、各理事会、精神障害者家族会と行政との懇談会など、計9回の支援を行った。

(イ) 地域家族会

地域家族会の育成援助は必要に応じて助言支援を行っている。

イ 石川県精神障害者支援事業所連絡会

平成5年度から県内の精神障害者小規模作業所指導員の研修の場として、活動を行ってきた。作業所数が大幅に増加したことから、平成8年5月に県内の小規模作業所で組織する石川県精神障害者支援事業所連絡会が発足し、月1回の例会等の活動を行っている。令和4年度は、12ヶ所の精神障害者支援事業所が参加している。当センターからは、総

会や定例会の会場提供や出席を通して、活動を支援している。

ウ 石川県メンタルヘルスポランティア連絡協議会

昭和63年に当センターでメンタルヘルスポランティア講座が開催され、各グループによる積極的な活動が行われてきた。平成11年に連絡会が開催され、平成13年度には「石川県メンタルヘルスポランティア連絡協議会」が発足。令和4年度には6グループが活動している。当センターからは、総会での会場提供や出席を通して、活動を支援している。

エ 石川県精神保健福祉協会

昭和35年10月に石川県精神衛生協会が結成され、平成3年6月、名称を石川県精神保健協会、平成10年6月に石川県精神保健福祉協会と改めている。令和4年4月1日現在の会員は、個人会員300名、団体会員27団体、特別会員12病院となっている。

表2 精神保健福祉協会への支援

期 日	内 容	対 象	人 数
R4. 5. 12 ~ R4. 12. 14 まで	こころの健康づくり講師派遣事業	地域、学校、 職域等の団体	5 回 85 人
R4. 5. 10	表彰審査委員会(オンライン開催)	委員	6 人
R4. 5. 16	理 事 会 (オンライン開催)	理事、監事	18 人
R5. 3. 6	〃 (オンライン開催)	〃	17 人
R4. 6. 25	総 会 (書面表決結果報告)	全会員	書 面 表 決 162 人
	精神保健講演会 演題：「子どもの社会性や感情力の発達と関わり方」～ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの観点から～ (オンデマンド配信)	会員、一般	オンデマ ンド配信 視聴者
R4. 8. 28	精神保健福祉研修会 (1)演題：「出会う、ともに支え合う、つくる」 ～子ども若者の命を守る新たな自殺予防の取 り組み～ (ハイブリッド開催)	関係機関職員、 保健所、一般	会場参加 3 人、オンラ イン参加 46 人
R5. 2. 10	(2)「みんなで一緒に学びたい 不登校、ひき こもりの居場所の話」 ～“とある若者”の生 き方に学ぶ～	〃	30 人
R4. 10. 1	令和4年度精神保健福祉フォーラム (精神保健 福祉研究会) テーマ「ひきこもりの長期化・高齢化を考 える」～特に8050問題について～ (ハイブリッド開催、オンデマンド配信)	関係機関職員、 保健所、一般	会場参加 11 人、オンラ イン参加 50 人、オンデ マンド配信 視聴者
R5. 3. 3	産業と精神保健専門委員会 1部 職場における自殺対策 ～ゲートキー パーになろう～ 2部 メンタルヘルス対策と管理監督者の役割	関係機関職員、 一般	37 人
R5. 2. 23	教育と精神保健専門委員会研修会 演題：「研究知見から考える子どものメンタ ルヘルス不調への予防的対応」	関係機関職員、 教育関係者、 一般	21 人
R5. 2. 16	地域精神保健専門委員会講演会 演題：「発達障害の“生きづらさ”が“暮ら しやすさ”になるために」	関係機関職員、 教育関係者、 一般	180 人
R5. 2 月	会報編集委員会 (メール審議)	委員	6 人

計16回 672人 (ほかオンデマンド配信視聴者)

オ 依存症関連自助グループ

令和4年度における、当センターが把握している依存症関連自助グループは、アルコール、薬物、ギャンブル、摂食障害、ACなどに関する24グループである。活動に関する周知協力や、情報交換、オープンスピーカーズミーティングへの参加などを通して活動を支援している。

(6) ひきこもり対策推進事業

平成13年4月から、青年期におけるひきこもりや不登校を対象として事業が開始され、平成21年度からは、ひきこもり地域支援センター事業を兼ねて実施している。

地域の保健所や関係機関と連携を図りながら、個別相談や家族交流会、ひきこもり当事者グループ活動、必要に応じて関係機関への訪問等の活動を行った。

また、平成26年度から「ひきこもりサポーター養成研修」を実施し、保健所等への派遣を行っている。令和2年度より、ひきこもり支援に関する研修会や、一般向けの公開講演会を実施している。市町、保健所への技術的な援助として、ひきこもり支援専門職チームの派遣も行った。

ア 個別相談

専用の相談窓口、相談日は設けず、随時相談に応じている。

表1 ひきこもり相談件数

区 分	延件数
電話相談	162 件
来所相談	369 件
訪問等	0 件
メールへの対応	4 件
合 計	535 件

イ ひきこもり当事者グループ（悠友クラブ）活動

ひきこもっている若者たちが安心して過ごせる「居場所」を確保し、同じ悩みをもつ仲間との交流体験を通して、孤独感の軽減、対人関係の改善や社会性の向上、ひきこもりや社会不適応からの脱却を図るために実施した。

日 時：毎週木曜日 13：30～15：30

回 数：年45回

内 容：スポーツ、散策、ゲームなど、参加者が話し合いによって決める。

対 象：概ね18歳以上のひきこもり状態の方

参加数：実人数15人（男性14人、女性1人）延べ152人

ウ ひきこもり家族交流会

ひきこもり問題に悩む家族がその経験や思いを共有することで、孤立感を和らげるとともに、それぞれが抱える問題への対応能力を向上させるために、交流会を開催した。

日 時：年5回土曜日 13：30～15：30

内 容：講義、話し合い

対 象：当センターで個別相談を継続している家族、及び「ひきこもり家族教室」や「ひきこもり家族交流会」に参加経験のある家族

表2 開催状況

開催日	テーマ	参加数
令和4年6月19日	講義「ひきこもりを理解しよう」	9家族10名
令和4年8月21日	ひきこもりサポーターによる体験発表	8家族8名
令和4年10月15日	親子間の対話の仕方について考える	4家族4名
令和5年2月19日	社会とのつながりについて	9家族11名

※施設設備不良のため12月は開催中止。

エ ひきこもり対策地域ネットワーク会議

ひきこもり支援に関する連携が効果的かつ適切に機能することを目的に、関係機関による連絡会を開催した。

開催日	対象地域	内容	参加数
令和4年10月19日	全県域	新規事業説明報告 市町、民間団体の実践報告	54名
令和4年12月26日	石川中央圏域	県及び保健所の報告 サポーター体験発表	17名
令和5年2月22日	石川中央圏域	市町取り組み報告	16名

オ ひきこもりサポーター養成研修

ひきこもり経験のある当事者や家族が自らの経験を生かしてひきこもりに悩む当事者や家族の支援をする、「ひきこもりサポーター」を養成する。研修終了後、行政機関

や団体等が行う相談や支援等にひきこもりサポーターとして活動することを希望した者に対し、修了証書を交付、ひきこもりサポーターとして登録した。

日 時：令和4年7月6日（水）13：00～17：00

内 容：講義①「ひきこもりに関する基礎知識」

講義②「ひきこもりサポーターの活動について」

演習①「自分の経験談をまとめよう」

演習②「自分の経験を発表しよう」

受講及び登録者：当事者0人、家族3人（うち登録者3人）

カ ひきこもりサポーター派遣

保健所等が開催するひきこもり教室等において、ひきこもり家族や支援者が、その経験を聞き対応等を学ぶために、登録したひきこもりサポーター(当事者または家族)を派遣した。(表3)

表3 ひきこもりサポーターの派遣状況

派遣先	当事者		家族	
	回数	人数	回数	人数
能登北部保健福祉センター	1回	1人	1回	2人
こころの健康センター	2回	3人	1回	1人
計	3回	4人	2回	3人

キ ひきこもりサポーターフォローアップ研修

登録しているひきこもりサポーターを対象に、活動上の不安の解消、実際の活動に関する情報の共有、サポーター同士の繋がりの強化を図るために研修会を例年開催していたが、令和2年度から中止している。

ク ひきこもり相談・支援者研修会

ひきこもりの相談対応に必要な知識及び基本的な姿勢について習得し、ひきこもり本人・家族への支援が適切に行える人材を養成するため研修を開催した。

実施日	内容	講師	人数
令和4年8月5日 9:30~15:00	講義：ひきこもり者の家族との面接で必要な技術を学ぶ (一部演習あり)	白梅学園大学 教授 長谷川 俊雄氏	25人
令和4年9月12日 13:30~15:50	講義①ひきこもり当事者の特性を理解する 講義②ひきこもり当事者との心地よい関係の作り方について学ぶ	講義① つなぐ会花園 吉本 真悟氏 講義②コミュニティハウスひとのま 宮田 隼氏	36人
令和4年10月19日 13:30~15:30	講義：「親なき後の備え」8050問題解消に向けて持つべき視点を学ぶ	一般社団法人OSDよりそいネットワーク 副代表 元木 翼氏	44人

ケ ひきこもり公開講演会

ひきこもり状態の方の感じている生き辛さや葛藤について正しく理解し、地域として支える姿勢を学ぶことを目的に開催した。

日 時：令和5年2月10日（金）13:30~15:30

テーマ：「みんなで一緒に学びたい不登校、ひきこもりの居場所の話

～とある若者の生き方に学ぶ～」

講 師：一般社団法人 Atlas 栗東事業部ふらっと Ritto 代表 岩見 行浩 氏

対 象：ひきこもりでお悩みの本人、家族、支援者、民生委員等を含む一般県民

参加者：40名

場 所：石川県リハビリテーションセンター

コ ひきこもり支援専門職チーム派遣事業

令和2年度より精神科医等によるひきこもり支援専門職チームを設置。

地域での処遇困難事例に対しての検討会の実施や、対象者への自宅訪問等による直接的な支援を行う。令和4年度は南加賀保健福祉センターからの依頼で事例検討会を2回実施した。

(7) 依存症関連問題指導事業

ア 特定相談指導

表1 相談指導状況

区 分	来 所 相 談			電話相談	その他 (メール・ 手紙)
	計	男	女		
アルコール問題	9 (4)	8 (3)	1 (1)	69	2
薬 物 問 題	4 (2)	4 (2)	0 (0)	15	2
ギャンブル問題	57 (18)	56 (17)	1 (1)	49	8
アルコール・薬物・ギャンブル以外	2 (1)	2 (1)	0 (0)	32	0
計	72 (25)	70 (23)	2 (2)	165	12

件数は延人数（カッコ内は実人数）

イ 依存症教室

アルコールや薬物、ギャンブル等依存症の当事者、家族、支援者が依存症に対する理解を深め、適切な対応や支援が行えることを目的に依存症教室を開催した。

内容：講義及び参加者からの質疑、講師からの助言

表2 依存症教室の開催状況

開催日	テーマ	講師	参加数（人）
令和4年9月29日	依存症とは	石川県立こころの病院 中宮 久美子氏 (ソーシャルワーカー)	14
令和4年11月15日	医療の視点から	石川県立こころの病院 日野 昌力氏 (精神科医)	16
令和5年1月20日	回復について	NPO 法人 富山ダルクリカバリーズ 林 敦也氏 賀好 啓之氏	6
令和5年3月10日	借金問題について	泉ヶ丘法律事務所 井上 瑞季氏 (弁護士)	14
計			50

ウ 依存症研修会

依存症の正しい理解と適切な対応を学び、より多くの関係者が依存症への適切な対応や支援を行えることを目的に、依存症研修会を開催した。

開催日：令和4年9月16日（金） 14：00～16：30

講師：小倉悠治法律事務所 西念 奈津江氏（ソーシャルワーカー）

内容：『『脱・問題解決』のススメ ～マニュアルを捨てよ、話を聴こう～』

参加者：精神保健、医療、司法、行政、高齢者福祉、生活困窮者自立支援担当者
17名

開催方法：ZOOM を利用したオンラインによる開催

エ 依存症家族交流会（サンサンの会）

アルコール、薬物、ギャンブル依存症者の家族が、適切な理解と対応を学び、同じ立場で分かち合える場として、平成27年度から家族交流会を開催している。

対象及び人数：アルコール、薬物、ギャンブル依存症者の家族（実4人、延9人）

内容：書籍『アルコール・薬物・ギャンブルで悩む家族のための7つの対処法
CRAFT』を用い、読み合わせとワーク、分かち合いを行う。

表3 サンサンの会の開催内容

回	テーマ
第1回	コミュニケーションを変える
第2回	望ましい行動を増やす
第3回	イネイブリングをやめるとは
第4回	あなた自身の生活を豊かにする

オ 依存症再発予防プログラム（いしかわ〜ぶ）

アルコール、薬物依存症の当事者が、回復に向けて具体的かつ効果的に取り組むことを目的として、平成27年度から開始した。令和4年度は、集団プログラムを1クール8回セッションで年3クール開催した。

対 象：アルコールや薬物の使用について困っている本人で、その使用を止めたいと願う者

参加人数：実1人、延べ11人

内 容：テキスト「いしかわ〜ぶ」（ISHIKAWA mental health center Relapse Prevention Program）を使用した集団プログラム

1クールにつき2回、富山ダルク職員にリカバリングスタッフとして出席を依頼した。

表4 いしかわ〜ぶ各回のテーマ

回	テーマ
第1回	(1) アルコールや薬物が脳に与える影響 (2) 引き金と渴望
第2回	(1) 思考停止法 (2) 外的な引き金と内的な引き金
第3回	(1) 回復の地図 (2) 回復初期によく起こる問題とその解決方法
第4回	自助グループー信頼・正直さ・仲間
第5回	(1) 思考・感情・行動 (2) アルコールについて考える
第6回	(1) 再使用を防ぐためにーその1ー (2) 再使用を防ぐためにーその2ー
第7回	再使用を防ぐためにーその3ー
第8回	強くなるより賢くなろう

(8) ドメスティック・バイオレンス抑止男性支援事業

平成13年10月の「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)の施行に先立ち、平成13年4月から暴力を止めたい男性が相談できる場所として、個別相談窓口を開設している。

ア DV相談件数

表1 DV個別相談件数

区 分		計	電話相談	来所相談
DVに関する相談件数		392件	266件	126件(20)
うちDV抑止に関する相談		243件	129件	114件(20)
相 談 者 内 訳	加 害 男 性	214件	103件	111件(17)
	加 害 女 性	0件	0件	0件(0)
	被 害 女 性	23件	20件	3件(3)
	被 害 男 性	1件	1件	0件(0)
	加害男性の家族等	0件	0件	0件(0)
	被害女性の家族等	0件	0件	0件(0)
	そ の 他	9件	0件	0件(0)

※ () は実件数

(9) 自殺予防対策推進事業

ア 自殺予防に向けた普及啓発の充実

(ア) 自殺予防街頭キャンペーン等 ※実施なし

9月10日の世界自殺予防デーにちなんで、毎年、9月10日から16日までの一週間を「自殺予防週間」として設定し、県民に自殺予防の呼びかけやうつ病等の精神疾患に対する正しい知識や相談窓口等の周知について普及啓発することを目的に該当キャンペーンを例年開催していたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実施しなかった。

(イ) 講演会

日 時 令和4年8月28日(日) 14:00~17:00

講 師 荒井 和樹 氏 (全国こども福祉センター理事長・創設者)

内 容 講演:「出会う、ともに支え合う、つくる

—子ども若者の命を守る新たな自殺予防の取り組み—

参加者 一般県民 49人

イ 自殺予防のための相談・支援の充実

(ア) 民間団体との連携会議

自殺予防週間や月間事業の一環として、かけがえのない命をまもるネットワークいしかわ(以下の民間団体:石川県宗教連盟、NPO ささえる絆ネットワーク北陸、NPO しあわせの輪グループ、NPO 法人金沢あすなる会、NPO 法人子どもの虐待防止ネットワーク石川、公益社団法人金沢こころの電話、子ども夢フォーラム、一般財団法人メンタルケア協会石川事務所、ひまわりの会)と県が連携し、自殺対策に向けて事業の計画検討や情報交換を行った。

回数	日時	内容	団体数及び参加数
1回	4月28日	自殺予防週間関連講演会の事業計画検討	6団体 11人
2回	6月1日		7団体 11人
3回	7月6日		5団体 9人

(イ) 包括的支援のための多職種事例検討会 ※実施なし

平成26年度から自殺のさまざまな要因に関連が深い分野の専門家や支援者等多くの職種が、事例を通して支援のあり方を共有し連携して支援する仕組みを例年検討していたが、令和4年は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実施しなかった。

ウ こころの健康づくりと早期発見・治療の促進

(ア) ゲートキーパー養成等事業

地域の中で悩んでいる人に気づき、必要な支援につなげるゲートキーパーの役割を担う人を育成し、自殺予防につなげることを目的とする。

a ゲートキーパー指導者研修会

地域において、自殺防止対策のリーダーとして活動できる人材を養成するとともに、これまで養成したゲートキーパーリーダーの更なる資質の向上のため研修会を開催した。

日 時：令和4年8月19日（金）9：30～12：00

講 師：こころの健康センター所長・精神科医 角田 雅彦

内 容：講演「ゲートキーパー指導者にとって大切なこと」
センター職員からの説明

参加者：行政機関の自殺対策担当者、生活困窮者自立支援担当者、
教育関係機関の担当者、他関係機関の担当者 69人

b ゲートキーパー出前講座（※）

講 師：こころの健康センター所長 角田 雅彦（精神科医）

実 施：17か所 対象者計：769名

※「(3) 普及啓発 イ 講師を派遣した講演会」に詳細を記載

(イ) 若い世代のこころの健康づくり事業

高校生や専門学校生等を対象にした自殺予防のためのこころの健康教育、ゲートキーパー研修等を実施した。

実施日	対象	参加数
令和4年6月1日	石川県立総合看護専門学校（学生）	25人
令和4年6月8日	石川県立総合看護専門学校（学生）	25人
令和4年10月28日	金沢医科大学（学生）	9人

エ 自殺未遂者へのケアと再発防止対策の構築

例年、自殺未遂者の再企図の防止や、自殺未遂者の心理面に配慮した対応の理解と普及を目的に、精神科医療や地域の支援につなぐための連携や体制の構築に向けた研修や事例検討会等を実施している。

（ア）自殺予防対策講演会

令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、研修会等は開催しなかった。

オ 遺族等へのケアと支援施策の充実強化

（ア）自死遺族交流会（J交流会）

家族を自死（自殺）で亡くした方達が、苦しい気持ちの語り合いや傾聴、互いを支え合う場として、平成18年11月より「自死遺族交流会」を開催している。

日 時：奇数月第1土曜日 14：00～16：00

場 所：金沢市内

回 数：6回

参加数：実11人 延べ28人

(10) 子どもの心のケア推進事業

近年、ひきこもりや小児うつ、摂食障害、発達障害など様々な子どもの心の問題が社会的課題となっているが、子どもの心の問題の診療を担う医師が少なく、保護者はもとより保育所や学校等においてもその対応に苦慮している現状がある。

そこで、子どもの心の問題に対し、医療・教育・保健・福祉の各分野が同じ認識のもとで連携し、子どもの健全な発達への支援と、地域で安心して継続的な相談ができる体制の構築を目的として、平成20年度から「いしかわ子どもの心のケアネットワーク事業」を開始し、平成24年度からは「子どもの心のケア推進事業」として事業を行っている。

ア 子ども心のケア相談事業

電話や来所面接による個別相談を通じ、子どもの心の問題で悩む家族や関係者が安心して相談でき、的確な支援を受けられる機関を紹介するなどコーディネート機能を実施した。

(ア) 電話相談実績

表1 電話相談件数と相談者の内訳

年代	延件数	相談者内訳		
		父	母	その他 (**)
幼児	3	0	2	1
小学生	70	1	45	24
中学生	41	5	20	16
高校生	51	5	27	19
その他 (*)	37	3	8	26
計	202	14	102	86

その他 (*) : 義務教育後、高等学校に在籍していない18歳以下の者

その他 (**) : 本人、祖父母、学校等

表2 電話相談内容(延)

	経済・貧困 問題	不登校 ひきこもり	非行 暴力	家庭内 の問題	出産・育児 上の悩み	身体上 の悩み	摂食障害	性格・行動 上の悩み	対人関係 の悩み	依存関係	性について の悩み	日常生活の 不安	病気の不安 等	情報提供 その他	計
幼 児	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
小 学 生	0	29	2	2	4	1	0	8	2	6	0	7	6	3	70
中 学 生	0	25	0	4	0	1	0	2	0	2	0	3	2	2	41
高 校 生	0	19	1	6	0	0	1	5	2	1	1	2	5	8	51
そ の 他	0	13	1	5	1	3	0	3	0	2	2	1	1	5	37
計	0	86	4	17	7	5	1	18	4	11	3	14	14	18	202

(イ) 来所相談

表3 来所相談件数と相談者内訳

年代	実件数	延件数 (***)	相談者内訳			
			父	母	本人	その他(**)
幼 児	0	0	0	0	0	0
小学生	3	22	0	22	20	0
中学生	9	23	7	16	23	1
高校生	12	39	5	38	14	1
その他(*)	2	4	4	3	0	0
計	26	88	16	79	57	2

その他(*) : 義務教育後、高等学校に在籍していない18歳以下の者、 その他(**) : 祖父母、学校等
 延件数(***) : 来所回数で計上。(母と子の相談対応を同時に行った場合、延1件と計上。) 相談者内訳
 が、実際に相談対応した人数となる。

表4 来所相談内容(実件数内訳)

	経済・貧困 問題	不登校 ひきこもり	非行 暴力	家庭内 の問題	出産・育児 上の悩み	身体上 の悩み	摂食障害	性格・行動 上の悩み	対人関係 の悩み	依存関係	性について の悩み	日常生活の 不安	病気の不安 等	情報提供 その他	計
幼 児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 学 生	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
中 学 生	0	2	1	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1	9
高 校 生	0	6	0	2	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	12
そ の 他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
計	0	11	2	4	0	2	0	4	1	0	0	0	0	2	26

表5 来所相談の経路（実件数内訳）

	直接	医療機関からの紹介	学校からの紹介	その他	年代別計
幼児	0	0	0	0	0
小学生	2	0	1	0	3
中学生	6	0	2	1	9
高校生	6	3	3	0	12
その他（*）	1	0	0	1	2
計	15	3	6	2	26

その他（*）：義務教育後、高等学校に在籍していない18歳以下の者

表6 来所相談の処遇状況及び他機関との連携状況（実件数内訳）

	対応について助言	継続面接	他機関へ紹介（病院等）	年代別計	他機関と連携（※再掲）
幼児	0	0	0	0	0
小学生	1	2	0	3	1
中学生	3	6	0	9	4
高校生	4	6	2	12	3
その他（*）	0	2	0	2	0
計	8	16	2	26	8

その他（*）：義務教育後、高等学校に在籍していない18歳以下の者

※再掲：医療機関・保健福祉センター・市町・学校・その他機関

イ 子どもの心の支援者研修会

（ア）子どものこころの問題に携わる関係者育成セミナー

目的：医療、教育、保健、福祉等、子どもの心の問題に関する治療及び支援に携わる各分野の関係者が一堂に会し、相談対応技術のスキルアップ及び連携の強化を図る。

参集者：子どもの心の問題に携わる医療・保健・教育・福祉等関係者

内容：講演会及び県内の話題提供

< 1回目 >

日時：令和4年7月20日（水） 13：30～16：30

①講演

講師：国立成育医療研究センターこころの診療部

社会福祉法人子どもの虐待防止センター

山口 有紗 氏（小児科専門医・小児精神神経学会認定医）

テーマ：コロナと共に生きる子どものこころ

開催方法：ZOOMを利用したオンラインによる開催

②県内の話題提供

石川県立こころの病院 こどものこころの診療科のご紹介

紹介者：石川県立こころの病院 高田 省吾 氏（精神科医師）

参加者数：63人

< 2回目 >

日時：令和4年8月4日（木） 13：30～15：15

講師：白梅学園大学子ども学部教授

長谷川 俊雄 氏（社会福祉士、精神保健福祉士）

テーマ：「学校行きたくない」は重要なメッセージ

開催方法：集合形式とオンライン併用のハイブリッド開催

参加人数：104人（会場28人、オンライン76人）

< 3回目 >

日時：令和4年10月21日（金） 13：30～15：15

講師：金沢大学附属病院 神経科精神科・子どものこころの診療科 講師

内藤 暢茂 氏（精神科医）

テーマ：ゲーム障害 関わり方と家族支援

開催方法：集合形式とオンライン併用のハイブリッド開催

参加人数：108人（会場36人、オンライン72人）

< 4回目 >

日時：令和4年11月30日（水） 13：30～15：15

講師：臨済宗建長寺派林香寺 住職

RESM 新横浜睡眠・呼吸メディカルケアクリニック 副院長

川野 泰周 氏（僧侶、精神科医）

テーマ：子どもに関わる大人の心のコントロール～マインドフルネス～
開催方法：集合形式とオンライン併用のハイブリッド開催
参加人数：96人（会場27人、オンライン69人）

< 5回目 >

日時：令和4年12月14日（水）13：30～15：15

講師：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 部長
同病院 薬物依存症センター センター長
松本 俊彦 氏（精神科医）

テーマ：子どものリスカやODに気づいたら

開催方法：集合形式とオンライン併用のハイブリッド開催
参加人数：130人（会場42人、オンライン88人）

(イ) 発達障害等早期支援関係者セミナー

目的：幼児・小学校低学年の発達障害等の支援に携わる各分野の関係者が一堂に会し、相談対応技術のスキルアップ及び連携の強化を図る。

参集者：医師（幼児健康診査担当医師・学校医等）、看護師等、保健・教育・福祉関係者

日時：令和5年2月19日（日）13：30～16：30

開催方法：ZOOMを利用したオンラインによる開催

参加人数：77人

① 野々市市発達相談センター実践報告

報告 野々市市発達相談センター 田中 和子 氏（保健師）

② 講演

講師 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

副院長/こころの診療部統括部長 小枝 達也 氏

内容 発達障害に対する早期からの気づきと支援の必要性

～その後の育ちを見てきたものからのメッセージ～

ウ 子ども心の支援者事例検討会

目的：支援内容の検討及び情報共有により、子どもへの総合的な支援を実施し、子どもを診る専門医、専門家および関係者の育成強化を図る。

令和4年度は、事例検討会単独の開催ではなく、子どものこころの問題に携わる関係者育成セミナーの第2回～5回の後に引き続き実施した。各回1事例を検討し、開催方法はいずれも集合形式で行った。

< 1回目 >

日時：令和4年8月4日（木） 15：15～16：30

スーパーバイザー

長谷川 俊雄 氏（白梅学園大学子ども学部教授、社会福祉士、精神保健福祉士）

高田 省吾 氏（石川県立こころの病院 精神科医師）

参加人数：28人

< 2回目 >

日時：令和4年10月21日（金） 15：15～16：30

スーパーバイザー

内藤 暢茂 氏（金沢大学附属病院 神経科精神科・子どものこころの診療科講師、
精神科医）

湯浅 加奈子 氏（石川県立こころの病院、公認心理師）

参加人数：36人

< 3回目 >

日時：令和4年11月30日（水） 15：15～16：30

スーパーバイザー

川野 泰周 氏（臨濟宗建長寺派林香寺 住職、RESM 新横浜睡眠・呼吸メディカルケア
クリニック副院長、僧侶、精神科医）

高田 省吾 氏（石川県立こころの病院 精神科医師）

参加人数：27人

< 4回目 >

日時：令和4年12月14日（水） 15：15～16：30

スーパーバイザー：

松本 俊彦 氏（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 部
長・同病院 薬物依存症センター センター長、精神科医）

参加人数：49人

エ いしかわ子どものこころのケアネットワーク事業検討会

目的：「いしかわ子どものこころのケアネットワーク事業」を円滑に実施するために、子どもに関わる各分野の関係者による検討会を開催している。

実施主体は県庁少子化対策監室。当センターは事務局として参加している。

日時：令和5年2月13日（月）19：00～20：30

開催方法：会場での開催とZOOMを利用したオンラインによる開催の併用

参集者：医療・保健・教育・福祉関係者

内容：各機関における子どものこころのケア推進に係る取り組みについての報告事例検討

オ 中央で開催された高度な研修・会議への参加

(ア) 子どもの心の診療ネットワーク事業連絡会議

<第1回>

日時：令和4年7月7日（木）

開催方法：オンライン

<第2回>

日時：令和5年1月27日（金）

開催方法：オンライン

(イ) 子どもの心の診療ネットワーク事業 中央拠点病院主催 研修会

テーマ：有事の際の子どもの心のケア

日時：令和4年7月8日（金）

開催方法：オンライン

カ 普及啓発

(ア) 子どもの心の診療・相談機関情報ガイド

子どもの心の問題に対応している精神科・心療内科・小児科等標榜医療機関及び相談機関の情報を収集し、小冊子を発刊し周知を図っている。令和3年度に内容を大きく見直し、第3版を発行した。令和4年度には、掲載機関のうち病院の改訂を行った。

(イ) 子どもの心の診療機関MAP

子どもの心の診療ネットワーク事業中央拠点病院事務局（国立成育医療研究センターこころの診療部内）が作成し、ホームページに掲載しているもの。県内の精神科及び小児科の各医療機関の診療情報を掲載するため、各々の機関に協力依頼を行っている。

令和3年度に上記情報ガイド改訂と併せて新規掲載の依頼と掲載内容の見直しを行い、その後は医療機関からの申し出があった際に、修正を行っている。

(11) 精神障害者地域生活支援事業

精神科病院に長期にわたり入院している精神障害者のうち、受け入れ条件を整えば在宅生活が可能と見込まれる人、及び入院期間が1年未満の人であっても地域生活への支援を行わなければ社会的な入院の長期化が見込まれる人への退院促進を図る。

ア ピアサポーターの養成研修会

長期入院患者等に対し、退院を促進し、地域での在宅生活に向けて仲間をサポートできるピアサポーターを養成するとともに、これまで養成したピアサポーターのフォローアップとして研修会を開催した。

日 時：令和4年12月9日（金） 13：30～16：00

場 所：石川県こころの健康センター研修室

参加者：ピアサポーターの活動を希望する精神障害者、ピアサポーター、精神科病院・クリニック等が運営する相談支援事業所職員、精神科病院職員（退院後生活環境相談員、精神保健福祉士等）、地域体制整備コーディネーター、保健所職員等 28人

内 容：①講 義「ピアサポーターの基礎知識」

講 師：ピアサポーター 松田 茂喜 氏

②グループ討議・発表

イ ピアサポーターの派遣

精神科病院、相談支援事業所と連携して、登録しているピアサポーターを派遣し、入院患者の地域生活への動機付けのための病院訪問や外出時の同行支援等を通じて退院促進を図った。

(ア) ピアサポーターの新規登録人数：0人

(イ) ピアサポーターの派遣回数及び人数

派遣内容等	回 数	人 数
医療機関への派遣	1回	1人
ピアサポーター養成研修	1回	8人

3 支援課（発達障害支援センター）業務

(1) 発達障害児(者)及び家族等に対する相談支援・発達支援・就労支援

発達障害児(者)に関する相談全般で1～数回の相談で終了する「相談支援」、心理機能の適正な発達を支援し、円滑な社会生活を促進するために発達障害の特性に対応して支援する「発達支援」、就労に関して支援する「就労支援」を行っている。

※支援は「相談支援」から始まり、支援計画を立てて、継続的支援である「発達支援」「就労支援」に切り替える。

表1 年齢別

年齢区分（歳）		0～3	4～6	7～12	13～15	16～18	19～	不明	合計
相談支援	実人員	18	27	88	30	32	200	55	450人
	延件数	18	32	106	44	66	616	61	943件
発達支援	実人員	18	160	98	32	20	60	0	388人
	延件数	128	2,176	1,051	535	331	545	0	4,766件

年齢区分（歳）		18歳未満	18歳以上	合計
就労支援	実人員	0	40	40人
	延件数	0	545	545件

表2 相談支援の主な相談内容

相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい	139
現在の生活に関することや家庭で家族ができることを知りたい	390
利用できる制度について知りたい	40
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	175
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	78
進路や将来の生活に関する相談をしたい	61
対応困難な状況の改善について相談したい	22
今後の就労について相談したい	76
現在勤めている職場に関する相談をしたい	47
その他	349
合 計	1,377件

※相談時毎の相談内容を計上。複数チェックあり

表3 相談方法

区 分	来所	訪問	電話	その他	合計
相 談 支 援	220	0	664	59	943 件
発 達 支 援	309	4,341	110	6	4,766 件
就 労 支 援	359	1	167	18	545 件
合 計	888	4,342	941	83	6,254 件

その他：メール、FAX、文書等を含む

表4 障害種別

区 分	相談支援	発達支援	就労支援	合計
自 閉 症	12	39	0	51
アスペルガー症候群	6	9	1	16
広汎性発達障害	72	57	36	165
A D / H D	41	19	3	63
L D	4	2	0	6
そ の 他	47	75	0	122
不明（未診断含む）	268	187	0	455
合 計	450 人	388 人	40 人	878 人

広汎性発達障害：高機能自閉症、自閉症スペクトラム障害含む

表5 相談者

区 分	相談支援	発達支援	就労支援	合計
本 人	451	2,440	462	3,353
保 護 者 ・ 親 族	389	2,298	39	2,726
保 育 所 ・ 幼 稚 園	0	0	0	0
小 学 校	5	0	0	5
中 学 校	3	0	0	3
高 等 学 校	1	0	0	1
特 別 支 援 学 校	2	0	0	2
専 門 学 校 ・ 短 大 ・ 大 学	0	0	0	0
教 育 委 員 会	3	0	1	4
市 町 保 健 セ ン タ ー	2	0	0	2
保 健 所	2	0	0	2
児 童 相 談 所	3	1	0	4
行 政	9	0	2	11
医 療 機 関	46	7	8	61
企 業	4	0	4	8
公 共 職 業 安 定 所	3	0	0	3
障 害 者 職 業 セ ン タ ー	2	0	1	3
地 域 若 者 サ ポ ー ト セ ン タ ー	0	0	0	0
障 害 者 就 業 ・ 生 活 支 援 セ ン タ ー	1	0	7	8
相 談 支 援 事 業 所	5	8	8	21
就 労 移 行 支 援 事 業 所	5	10	6	21
就 労 継 続 支 援 事 業 所	0	0	6	6
そ の 他	7	2	1	10
合 計	943件	4,766件	545件	6,254件

行政：保健所、市町保健センターを除く

表6 支援回数別実人員

区 分	1～10回	11回以上	合計
発達支援（実人員）	320	68	388人
就労支援（実人員）	26	14	40人

表7 支援期間別実人員

区 分	3ヶ月未満	3ヶ月～ 6ヶ月未満	6ヶ月～ 1年未満	1年以上	合計
発達支援（実人員）	70	37	47	234	388人
就労支援（実人員）	0	0	0	40	40人

(2) 精神科医による相談事業

嘱託の精神科医による相談を月1回実施している。相談後の支援としては、センターによる継続支援や、必要に応じて医療機関等への紹介を実施している。

相談事業結果

実 施 回 数		9回
来 所 実 人 員		9人
来 所 延 人 員		9人
年齢別	0 ～ 3 歳	0
	4 ～ 6 歳	0
	小 学 生	1
	中 学 生	0
	1 6 ～ 1 8 歳	0
	1 9 歳 ～	8
	合 計	9
診察結果	障 害 な し	0
	経過観察（判定保留）	0
	自 閉 症	0
	アスペルガー症候群	0
	広汎性発達障害	9
	A D / H D	0
	知 的 障 害	0
	そ の 他	0
合 計	9	
支援内容	センターで継続支援	9
	医 療 機 関 紹 介	0
	療 育 施 設 紹 介	0
	その他の機関紹介	0
	他 機 関 で 管 理 中	0

広汎性発達障害：高機能自閉症、自閉症スペクトラム障害含む

(参考)

年度別各支援件数の推移

年 度	相談支援	発達支援	就労支援	計
H30	1,110 (590)	4,139 (297)	1,044 (78)	6,293 (965)
R 元	1,109 (605)	3,519 (251)	702 (62)	5,330 (918)
R2	854 (451)	2,398 (204)	554 (53)	3,806 (708)
R3	981 (467)	4,653 (346)	568 (48)	6,202 (861)
R4	943 (450)	4,766 (388)	545 (40)	6,254 (878)

注：() は内数で実人員

(3) 青年期グループ活動

平成 17 年 10 月より、週 1 回午前 10 時から午後 3 時まで、青年期の当事者を対象としたグループ活動を実施している。

表 1 活動状況

実施回数	実人員	延人員	内 容
44 回	8 人	113 人	対人マナー、社会見学、ストレス解消法等

(4) 就労者グループ活動

平成 22 年 7 月より、月 1 回午後 7 時から 8 時半まで、就労者の当事者を対象としたグループ活動を実施している。

表 1 活動状況

実施回数	実人員	延人員	内 容
10 回	2 人	16 人	談話会等

(5) 親のつどい

平成 19 年 10 月より、月 1 回午後 1 時半から 3 時半まで、青年期にある当事者の保護者を対象として実施している。

平成 21 年 12 月より、月 1 回午前 10 時から 12 時まで、学齢期にある当事者の保護者を対象として実施している。

表 1 実施状況

区 分	実施回数	実人員 (家族)	延人員	内 容
青年期	11 回	5 組	27 人	ピアカウンセリング、話し合い等

(6) 関係機関等との調整会議

表 1 開催状況

内容	発達障害 全般	療育	医療	教育	保健	福祉	就労	自立 支援	その他	合計
回数	10	5	0	2	1	2	1	1	1	23 回

(7) 機関コンサルテーション

関係機関に対する障害児（者）への関わり方等についての助言を実施している。

表1 対象機関及び支援内容

区 分		実支援施設数	延支援件数
対象機関	小 学 校	1	2
	中 学 校	1	1
	高 等 学 校	0	0
	特 別 支 援 学 校	1	1
	専 門 学 校 ・ 大 学	0	0
	県 教 育 委 員 会	1	4
	市 教 育 研 究 所	0	0
	障 害 者 職 業 セ ン タ ー	0	0
	相 談 支 援 事 業 所	7	7
	就 労 移 行 支 援 事 業 所	2	2
	就 労 継 続 支 援 事 業 所	2	2
	公 共 職 業 安 定 所	1	1
	市 町	5	5
	放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス	5	8
	医 療 機 関	0	0
	児 童 相 談 所	0	0
	企 業	4	4
	そ の 他	3	3
	合 計	33カ所	40件
支援内容	障 害 特 性 の 理 解		1
	指 導 ・ 対 応 方 法 の 助 言		25
	心 理 査 定		0
	事 例 検 討		5
	研 修 会		0
	そ の 他		9
	合 計		40件

(8) 個別支援のための調整会議

関係機関による会議を開催し、障害児（者）に関して、共通認識を図り、よりよい支援を検討している。

表1 年齢別

区分	0～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	19歳以上	合計
実人員	0	0	2	0	9	11人
延件数	0	0	2	0	13	15件

表2 障害種別

区分	実支援人員
自閉症	0
アスペルガー症候群	0
広汎性発達障害	10
A D / H D	1
L D	0
その他	0
不明（未診断含む）	0
合計	11人

広汎性発達障害：高機能自閉症、自閉症スペクトラム障害含む

表3 会議テーマ

内容	開催回数
家庭生活	0
健康・医療	0
教育	2
福祉	0
療育支援	0
進路相談	0
自立支援	3
就労支援	7
その他	3
合計	15回

(9) 普及啓発及び研修

発達障害児（者）の理解及び支援を積極的に進めるため、一般を対象とした普及啓発及び関係機関の職員を対象とした研修会を実施している。

また、関係機関からの講演依頼について、講師を派遣している。

今年度から研修体系を変更して実施。

表1 研修会及び公開講演会の開催状況

研修名	令和4年度発達障害者等相談支援従事者育成研修（基礎研修）
月日 場所	令和4年6月20日（月）11:00～16:15 金沢市異業種研修会館
内容 講師	研修Ⅰ－① 講演「発達障害者支援法について」 講師：石川県障害保健福祉課 主事 穴戸 宏充
	研修Ⅰ－② 講演「発達障害のある人への相談支援」 講師：石川県発達障害支援センター 支援課長 酒井 伸吾
	研修Ⅰ－③ 講演「発達障害とは」 講師：やすもと医院院長 精神科医 安本 真由美 氏
参加者	行政（保健・福祉）、相談支援事業所等の関係機関で、初めて相談業務に携わる方もしくは発達障害に関する研修会に参加したことのない方 53人
月日 場所	令和5年2月16日（木）9:30～12:00 石川県地場産業振興センター コンベンションホール
内容	研修Ⅱ 講演「発達障害の“生きづらさ”が“暮らしやすさ”になるために」
講師	信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部長 同大学医学部子どものこころの発達医学教室教授 精神科医 本田 秀夫 氏
参加者	行政（保健・福祉）、相談支援事業所等の関係機関で、初めて相談業務に携わる方もしくは発達障害に関する研修会に参加したことのない方 42人

研修名	令和4年度発達障害者等相談支援従事者育成研修（専門研修）
月日 場所	令和4年6月20日 金沢市異業種研修会館
内容	① 講義「発達障害者支援法について」 ② 講義「発達障害のある人への相談支援」 ③ 講義「発達障害とは」
講師	① 石川県障害保健福祉課 主事 宍戸 宏充 ② 石川県発達障害支援センター 支援課長 酒井 伸吾 ③ やすもと医院 精神科医 安本 真由美 氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 24人
月日 場所	令和5年2月16日 石川県地場産業振興センター 新館 コンベンションホール
内容	講演「発達障害の“生きづらさ”が“暮らしやすさ”になるために」
講師	信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部長 同大学医学部子どものこころの発達医学教室教授 精神科医 本田 秀夫 氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 *関係機関研修会・公開講演会を講義の一コマに 24人
月日 場所	令和4年10月8日 Zoomでのオンライン開催
内容	講演「支援に役立てるアセスメント ～WAIS-IV検査結果を通して成人期のつまづきを考える～」
講師	日本臨床発達心理士会茨城支部 支部長 大六 一志 氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 *アセスメントツール研修会を講義の一コマに 11人
月日 場所	令和4年8月8日 石川県こころの健康センター 研修室
内容	講義①「ライフステージに応じた支援～幼児・学齢期～」 講義②「ライフステージに応じた支援～思春期以降～」
講師	日本ポーターズ協会石川湖南支部 小坂 正栄 氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 24人
月日 場所	令和4年9月5日 石川県こころの健康センター 研修室
内容	講義「アセスメントツール研修（概論）」
講師	臨床心理士 滋野井 圓 氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 24人

月日 場所	令和4年11月9日 石川県庁 1408会議室
内容	① 講義「発達障害の特性を持つひきこもり本人と家族への支援」 ② 講義「発達障害者の就労支援の在り方について」 ③ 講義と発表「発達障害のある方への就労支援の実際」
講師	① 発達障害者支援センターパース 就労支援リーダー 吉本 真悟 氏 ② 就労移行支援事業所リエゾン所長 中山 肇 氏 ③ 石川障害者職業センター 障害者職業カウンセラー 黒木 稚菜美 氏、当事者 1名
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 24人
月日 場所	令和4年7月～令和4年8月 計5回 石川県発達障害支援センター、グループ外出先
内容	実習① 当センターが実施している当事者グループ活動への参加
講師	石川県発達障害支援センター職員
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 計 25人
月日 場所	令和4年9月～令和4年12月 計4回 石川県発達障害支援センター
内容	実習② 石川県発達障害支援センターの機能（個別相談）について ・個別相談の流れについて説明 ・ケースカンファレンスに参加、質疑や意見交換
講師	石川県発達障害支援センター職員
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 計 24人
月日 場所	令和4年9月5日 石川県こころの健康センター 研修室
内容	実習③ 当事者の声を聞く ・講演「トウジシャたちの当事者意識－支援者と二人三脚の安定就労－」
講師	大人の発達障害を明るく語る会 こころらぼ 代表 みっと 氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 24人
月日 場所	令和4年12月8日 石川県庁1102会議室
内容	実習④ 発達障害がある人の支援方法について学ぶ(講義、ロールプレイ等) ・講義と実習「特性理解」と「支援の角度」
講師	金沢手をつなぐ親の会事務局次長 相談支援事業所「きずな」相談支援専門員 笠合 竜明 氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 計 25人

研修名	令和4年度発達障害者等相談支援従事者育成研修（実践研修）	
月日 場所	令和4年9月14日（水）13:00～ 生涯学習センター能登分室 講義室	令和4年9月22日（木）13:00～ 石川県こころの健康センター 研修室
内容	研修Ⅰ「情報交換会」	
講師	司会・進行・助言：石川県発達障害支援センター 支援課長 酒井 伸吾	
参加者	当センターで過去5年間に、上級研修もしくは フォローアップ研修を修了した方 7人	当センターで過去5年間に、上級研修もしくは フォローアップ研修を修了した方 21人
月日 場所	令和4年10月19日（水）13:00～ 生涯学習センター能登分室 講義室	令和4年10月27日（木）13:00～ 石川県庁 1102会議室
内容	研修Ⅱ「事例検討会」	
講師 助言	金沢手をつなぐ親の会事務局次長 相談支援事業所「きずな」相談支援専門員 笠合 竜明 氏	
参加者	当センターで過去5年間に、上級研修もしくは フォローアップ研修を修了した方 9人	当センターで過去5年間に、上級研修もしくは フォローアップ研修を修了した方 20人
月日 場所	令和4年11月24日（木）13:00～ 生涯学習センター能登分室 講義室	令和4年12月1日（木）13:00～ 石川県庁 1102会議室
内容	研修Ⅲ「講義及び演習」 「発達障害の特性を理解した対応方法について（再確認）」	
講師	金沢手をつなぐ親の会事務局次長 相談支援事業所「きずな」相談支援専門員 笠合 竜明 氏	
参加者	当センターで過去5年間に、上級研修もしくは フォローアップ研修を修了した方 7人	当センターで過去5年間に、上級研修もしくは フォローアップ研修を修了した方 20人

研修名	令和4年度アセスメントツール基礎研修
月日 場所	令和4年10月8日（土）10:00～16:00 Zoomでのオンライン開催
内容	講演「支援に役立てるアセスメント ～WAIS-IV検査結果を通して成人期のつまずきを考える～」
講師	日本臨床発達心理士会茨城支部 支部長 大六 一志 氏
参加者	保健、福祉、医療、教育、相談機関等の発達障害児者支援に携わる職員（76人） 発達障害者等相談支援従事者育成研修（専門研修）受講者（11人） 受講者計 87人

研修名	令和4年度石川県発達障害支援センター関係機関研修会及び公開講演会
月日 場所	令和5年2月16日（木）9:30～12:00 石川県地場産業振興センター 新館 コンベンションホール
内容	講演「発達障害の“生きづらさ”が“暮らしやすさ”になるために」
講師	信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部長 同大学医学部子どものこころの発達医学教室教授 精神科医 本田 秀夫 氏
参加者	保健、福祉、医療、教育、相談機関等の発達障害児者支援に携わる職員（114人） 発達障害者等相談支援従事者育成研修（基礎研修）受講者（42人） 発達障害者等相談支援従事者育成研修（専門研修）受講者（24人） 受講者計 180人

研修名	令和4年度石川県発達障害者支援センター公開講演会
月日 場所	令和5年2月4日（土）14:00～16:30 金沢市ものづくり会館 2階 研修室
内容	講演「発達障害とゲーム・ネット・スマホ ～「嗜癖」かなと思ったら～」
講師	愛知県医療療育総合センター中央病院子どものこころ科（児童精神科）部長 あいち発達障害者支援センター副センター長 吉川 徹 氏
参加者	医療、保健、福祉、教育、相談機関等の職員、保護者、一般 計 103人

表2 講師を派遣した講演会及び研修会開催状況

日 時	会 場	内 容	対象及び人数
令和4年5月20日	県庁	発達障害支援アドバイザー研修会	放デイスタッフ52人
令和4年5月22日	社会福社会館	障害程度区分認定の医師意見書記載にかかわる研修会	医療機関職員 39人
令和4年6月15日	コスモアイル羽咋	放課後児童支援員等資質向上研修会	放課後児童支援員 113人
令和4年6月16日	小松市公会堂	放課後児童支援員等資質向上研修会	放課後児童支援員 30人
令和4年6月17日	地場産業振興センター	放課後児童支援員等資質向上研修会	放課後児童支援員 49人
令和4年6月15日	発達障害支援センター	金沢工業大学大学院生研修	学生・教員 8人
令和4年7月29日	県庁	健やかふれあい保育事業の対象児童認定に係る判定会	対象児童 181人
令和4年8月19日	金沢産業技術専門学校	県内一般校職業訓練指導員研修会	指導員 20人
令和4年8月23日	発達障害支援センター	金沢工業大学心理学課程 実習	学生・教員 10人
令和4年8月31日	発達障害支援センター	精神保健福祉担当初任者研修会	県・市町担当職員 16人
令和4年10月12日	星稜大学	星稜大学人間学部こども学科 講義	学生・教員 29人
令和4年10月28日	街角年金相談センター	街角年金相談センター相談員研修会	社労士 22人
令和4年10月29日	白山市福祉ふれあいセンター	白山市発達相談センター就労講演会	行政・家族等 34人
令和4年11月14日	発達障害支援センター	保育専門学校専攻科実習	学生・教員 2人
令和4年12月2日	発達障害支援センター	保育専門学校専攻科実習	学生・教員 2人
令和4年12月15日	津幡町役場	津幡町権利擁護研修会	司法・民生委員等 40人
令和5年1月5日	発達障害支援センター	県内高等学校養護教諭研修会	養護教諭 16人

Ⅲ 資 料

1 精神保健福祉相談状況(電話・来所・訪問)

(1)相談区分別相談件数

保健所	区分	合計 (延)	老人精 神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健 康づくり	うつ・う つ状態	摂食障害	てんかん	その他
南加賀 保健福 祉セン ター	電話	1,325	25	819	53	11	3	0	41	270	27	12	0	64
	メール	43	0	28	0	0	0	0	1	6	5	0	0	3
	来所(実59)	85	0	30	3	1	2	0	4	39	1	0	1	4
	訪問(実54)	135	3	75	6	0	0	0	10	27	3	2	0	9
石川中 央保健 福祉セン ター	電話	1,493	87	739	43	5	7	0	56	206	1	0	0	349
	メール	21	1	9	3	0	0	0	1	3	0	0	0	4
	来所(実65)	108	5	30	5	0	3	0	4	55	0	0	0	6
	訪問(実71)	238	3	140	3	0	0	0	8	12	0	0	0	72
能登中 部保健 福祉セン ター	電話	944	38	160	41	0	10	0	10	108	26	0	0	551
	メール	19	0	3	2	0	1	0	1	6	1	0	0	5
	来所(実63)	155	7	40	2	0	2	0	2	55	1	0	0	46
	訪問(実43)	89	6	41	2	0	0	0	0	6	0	0	0	34
能登北 部保健 福祉セン ター	電話	914	16	664	19	0	0	0	63	36	84	0	0	32
	メール	3	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	来所(実57)	154	17	67	24	0	0	0	8	25	6	0	0	7
	訪問(実28)	70	0	44	2	0	0	0	9	0	14	0	0	1
金沢市 福祉健 康セン ター	電話	4,340	67	2,118	123	30	1	0	85	538	64	16	0	1,298
	メール	28	9	9	1	0	0	0	4	2	0	0	0	3
	来所(実258)	469	25	156	8	0	0	0	17	168	21	2	0	72
	訪問(実192)	585	9	358	20	8	0	0	8	37	0	9	0	136
保健所 計	電話	9,016	233	4,500	279	46	21	0	255	1,158	202	28	0	2,294
	メール	114	10	50	6	0	1	0	7	17	7	0	0	16
	来所(実522)	971	54	323	42	1	7	0	35	342	29	2	1	135
	訪問(実462)	1,117	21	658	33	8	0	0	35	82	17	11	0	252
こころの 健康セン ター	電話	18,661	91	5,025	59	15	55	20	198	10,254	1,263	20	2	1,659
	メール	39	0	2	2	0	2	0	2	16	3	0	1	11
	来所(実237)	1,388	0	191	10	12	133	15	158	657	113	0	0	99
	訪問(実130)	166	0	34	0	0	0	0	0	132	0	0	0	0

(2)年齢区分別相談件数

保健所		区分	合計	0~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~	不明
南加賀保健福祉センター	電話	延	1,325	53	161	233	370	361	48	47	52
	来所	実	59	6	14	12	15	8	3	1	0
		延	85	6	24	15	21	15	3	1	0
	訪問	実	54	4	10	8	13	11	3	5	0
		延	135	10	17	24	39	30	8	7	0
石川中央保健福祉センター	電話	延	1,493	171	279	184	352	178	74	152	103
	来所	実	65	5	7	13	19	10	2	7	2
		延	108	5	21	22	23	25	2	8	2
	訪問	実	71	6	8	11	16	13	7	9	1
		延	238	26	33	25	77	31	20	25	1
能登中部保健福祉センター	電話	延	944	44	73	81	258	299	108	58	23
	来所	実	63	5	5	10	20	9	6	4	4
		延	155	7	18	32	63	17	9	5	4
	訪問	実	43	1	5	5	11	8	5	8	0
		延	89	1	14	9	22	23	8	12	0
能登北部保健福祉センター	電話	延	914	67	185	106	110	135	202	96	13
	来所	実	57	3	5	8	8	11	10	11	1
		延	154	11	11	21	23	22	30	35	1
	訪問	実	28	2	2	6	5	4	6	3	0
		延	70	9	8	11	8	15	14	5	0
金沢市福祉健康センター	電話	延	4,340	190	572	788	905	952	289	564	80
	来所	実	258	25	34	51	41	47	17	42	1
		延	469	40	63	84	89	78	22	88	5
	訪問	実	192	6	20	23	46	45	19	33	0
		延	585	18	51	56	165	149	62	83	1
保健所計	電話	延	9,016	525	1,270	1,392	1,995	1,925	721	917	271
	来所	実	502	44	65	94	103	85	38	65	8
		延	971	69	137	174	219	157	66	137	12
	訪問	実	388	19	45	53	91	81	40	58	1
		延	1,117	64	123	125	311	248	112	132	2
こころの健康センター	電話	延	18,661	350	2,334	3,702	3,347	5,378	2,162	246	1,142
	来所	実	238	43	61	61	25	18	13	16	1
		延	1,388	58	343	399	154	93	45	3	16
	訪問	実	130	0	13	21	24	29	12	4	27
		延	166	0	18	29	34	33	13	12	27

(3) 診断別相談件数

区分		合計	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	その他	保留	不明
保健所																
南加賀保健福祉センター	来所 実	59	1	1	11	5	0	0	0	0	6	1	2	1	0	31
	延	85	3	2	15	7	0	0	0	0	7	1	2	1	0	47
	訪問 実	54	2	2	13	12	2	1	3	3	0	1	0	0	0	15
	延	135	3	6	50	18	5	2	12	4	0	3	0	0	0	32
石川中央保健福祉センター	来所 実	65	1	2	9	3	2	1	0	0	2	1	0	0	37	7
	延	108	1	3	24	3	2	1	0	0	3	1	0	0	62	8
	訪問 実	71	1	5	21	9	5	0	2	1	6	1	0	0	13	7
	延	238	2	18	73	48	19	0	9	6	11	8	0	0	24	20
能登中部保健福祉センター	来所 実	63	2	0	16	10	5	0	0	0	2	0	0	0	0	28
	延	155	11	0	43	15	11	0	0	0	12	0	0	0	0	63
	訪問 実	43	4	1	17	6	4	0	1	0	3	1	0	0	0	6
	延	89	5	2	45	12	4	0	1	0	7	3	0	0	0	10
能登北部保健福祉センター	来所 実	57	4	3	19	7	4	0	0	1	4	0	0	6	2	7
	延	154	18	8	39	14	6	0	0	1	13	0	0	30	2	23
	訪問 実	28	0	1	14	4	2	1	0	1	3	0	0	0	1	1
	延	70	0	2	31	17	5	1	0	1	10	0	0	0	1	2
金沢市福祉健康センター	来所 実	258	2	6	34	33	10	1	3	2	9	2	0	13	1	142
	延	469	2	7	54	69	15	1	14	6	34	3	0	23	10	231
	訪問 実	192	2	6	77	29	8	2	2	4	11	5	0	2	0	44
	延	585	2	32	261	89	22	2	3	11	27	17	0	11	1	107
保健所計	来所 実	502	10	12	89	58	21	2	3	3	23	4	2	20	40	215
	延	971	35	20	175	108	34	2	14	7	69	5	2	54	74	372
	訪問 実	388	9	15	142	60	21	4	8	9	23	8	0	2	14	73
	延	1,117	12	60	460	184	55	5	25	22	55	31	0	11	26	171
こころの健康センター	来所 実	238	0	1	1	28	13	0	6	1	16	2	0	4	24	142
	延	1,300	0	5	7	166	83	0	40	24	131	0	0	6	221	617
	訪問 実	87	0	0	4	28	1	0	0	1	2	0	0	0	0	51
	延	111	0	0	12	28	1	0	0	4	10	0	0	0	0	56

※診断名はICD10に準ずる

※こころの健康センターの「その他」は異常なし、非定型精神病、ナルコレプシーを含む

(4) 自殺・ひきこもり区分別相談件数(再掲)

保健所	区分	自殺	ひきこもり						
			10代	20代	30代	40代	50代以上	不明	合計
南加賀保健福祉センター	電話	139	2	2	9	1	56	0	70
	メール	16	0	0	0	0	0	0	0
	来所 実	2	1	1	4	0	2	0	8
	延	2	1	1	6	0	4	0	12
	訪問 実	8	0	0	1	0	1	0	2
	延	19	0	0	1	0	11	0	12
石川中央保健福祉センター	電話	108	31	22	4	35	40	0	132
	メール	8	0	0	0	2	1	0	3
	来所 実	1	1	4	1	4	1	0	11
	延	4	1	18	2	4	1	0	26
	訪問 実	4	1	0	2	2	3	0	8
	訪問 延	15	8	1	2	12	6	0	29
能登中部保健福祉センター	電話	74	13	37	29	69	10	0	158
	メール	3	0	0	0	1	0	0	1
	来所 実	3	1	4	3	8	1	0	17
	延	3	3	15	17	33	2	0	70
	訪問 実	3	1	2	2	2	1	0	8
	訪問 延	3	1	10	3	2	9	0	25
能登北部保健福祉センター	電話	45	5	11	28	0	40	0	84
	メール	0	1	0	0	0	1	0	2
	来所 実	3	0	3	2	1	1	0	7
	延	4	0	5	7	10	1	0	23
	訪問 実	2	1	0	1	0	2	0	4
	訪問 延	6	1	0	2	0	8	0	11
金沢市福祉健康センター	電話	818	26	40	61	48	45	1	221
	メール	2	2	5	0	0	0	0	7
	来所 実	23	5	8	10	6	5	0	34
	延	62	21	32	18	8	6	0	85
	訪問 実	36	1	3	4	4	4	0	16
	延	83	3	9	10	14	23	1	60
保健所計	電話	1184	77	112	131	153	191	1	665
	メール	29	3	5	0	3	2	0	13
	来所 実	32	8	20	20	19	10	0	77
	延	75	26	71	50	55	14	0	216
	訪問 実	53	4	5	10	8	11	0	38
	延	126	13	20	18	28	57	1	137
こころの健康センター	電話	267	24	61	97	11	41	19	253
	メール	3	0	0	1	0	0	0	1
	来所 実	20	3	27	24	1	2	0	57
	延	143	26	226	198	6	3	0	459
	訪問 実	0	0	1	0	0	0	0	1
	延	0	0	2	0	0	0	0	2

2 普及啓発活動

保健所	区分	講演会			ゲートキーパー養成等事業及び若い世代の心の健康作り事業								
	内容	人数	内容	対象	回数	人数	内容	対象					
南加賀保健福祉センター		38	研修会(10代の子ども・若者をターゲットにした自殺予防について)	行政、医療、福祉機関、各種団体	1	29	ゲートキーパー養成研修	企業の衛生管理責任者					
					2	12	ゲートキーパー養成研修	金沢大学学生					
					1	9	ゲートキーパー養成研修	小松大学学生					
					1	7	ゲートキーパー養成研修	金城大学学生					
石川中央保健福祉センター			なし		1	20	ゲートキーパー養成講座	国際ペット専門学校教員					
					1	49	ゲートキーパー養成講座	かほく市民					
					1	13	ゲートキーパー養成講座	メンタルヘルスボランティアたんぼぼの会					
					1	9	ゲートキーパー養成講座	金沢医科大学学生					
					1	3	ゲートキーパー養成講座	金沢大学学生					
					1	7	ゲートキーパー養成講座	金城大学学生					
					1	80	ゲートキーパー養成講座	県立看護大学学生					
					1	1	ゲートキーパー養成講座	県立中央病院研修医					
能登中部保健福祉センター			なし		1	35	ゲートキーパー養成研修	七尾看護専門学校学生					
能登北部保健福祉センター			なし		1	30	ゲートキーパー養成講座 ～こころの病とケアについて～	珠洲能登地区保護司会会員					
					2	51	自殺対策研修(ゲートキーパー養成講座)	市職員					
金沢市福祉健康センター			こころの健康	星稜大学生	3	57	こころの健康づくり講座(ゲートキーパー研修含む)	市職員					
					42	メンタルヘルスに関する講話	市職員	2	523	ゲートキーパー研修	大学生		
					13	メンタルヘルスに関する講話	額地区住民	3	75	ゲートキーパー研修	大学生		
					242	メンタルヘルスに関する講話	大学生	3	14	ゲートキーパー研修	大学生		
					22	メンタルヘルスに関する講話	菊川地区住民	2	10	ゲートキーパー研修	大学生		
					240	ひきこもり講演会(web、オンデマンド)	市民	1	42	こころの健康づくり講座(ゲートキーパー研修含む)	市職員		
					24	こころの健康	東部環境エネルギーセンター職員	2	26	ゲートキーパー研修	専門学校生		
					23	メンタルヘルスに関する講話	大野地区住民	4	242	こころの健康づくり講座(ゲートキーパー研修含む)	大学生		
					39	メンタルヘルスに関する講話	独立行政法人職員	1	22	ゲートキーパー研修	菊川地区住民		
					16	メンタルヘルスに関する講話	米泉地区住民	1	24	こころの健康づくり講座(ゲートキーパー研修含む)	市職員		
					58	メンタルヘルスに関する講話	金沢美術工芸大学	1	23	ゲートキーパー研修	大野地区住民		
					22	精神科医による講話 「こころ健康と病気への理解」	此花地区住民	1	39	こころの健康づくり講座(ゲートキーパー研修含む)	独立行政法人職員		
					16	こころの健康	ボランティア大学高齢者福祉コース受講者	1	16	ゲートキーパー研修	米泉健康教室参加者		
					14	こころの健康	芳斉地区高齢者	1	58	ゲートキーパー研修	大学教員・事務局職員		
					200	メンタルヘルスに関する講話	金沢大学	1	22	ゲートキーパー研修	此花地区住民		
										1	16	メンタルヘルスボランティア講座	ボランティア大学高齢者福祉コース受講者
										1	14	ゲートキーパー研修	芳斉地区住民
					1	200	ゲートキーパー研修	大学生					

保健所	自殺予防普及啓発事業(街頭キャンペーン、ラジオ、広報等)	
	回数	
南加賀保健福祉センター	8	街頭キャンペーン
石川中央保健福祉センター	7	街頭キャンペーン
	5	(ラジオ)自殺予防週間について等
能登中部保健福祉センター	2	街頭キャンペーン
	2	(ラジオ)自殺予防週間について等
能登北部保健福祉センター	2	街頭キャンペーン
金沢市福祉健康センター	2	(Facebook)自殺対策強化月間
	4	(ラジオ)こころの健康づくり、自殺対策強化月間等

3 関係機関・団体との連携

保健所	機関名	支援内容	回数
南加賀保健福祉センター	小松市	小松市くらし安心ネットワーク協議会いのちと心の部会	2
	小松市	小松市精神障がい者等地域生活支援研究会	1
	小松市	精神事例検討会	8
	加賀市	庁内外自殺対策連絡会	1
	加賀市	加賀市地域移行支援会議	2
	加賀市	精神事例検討会	5
	能美市	DV対策部会	1
	能美市	精神事例検討会	2
	精神科病院	精神事例検討会	5
	金沢保護観察所	精神事例検討会	3
	メンボラTOMOの会	メンボラTOMOの会役員会	5
石川中央保健福祉センター	白山市	共生の街づくり推進協議会 すまい部会・全体会	6
	白山市	ケア会議	4
	野々市市	虐待防止協議会 障害者虐待防止部会	1
	野々市市	自立支援協議会 精神包括ケア部会	1
	野々市市	野々市市自殺対策協議会	1
	野々市市	ケア会議	4
	かほく市	自立支援協議会、運営会議	2
	かほく市	かほく市自殺対策推進委員会	1
	かほく市	ケア会議	3
	津幡町	障害者地域自立支援協議会 運営会議	1
	内灘町	内灘町自立支援協議会	1
	金沢市	ケア会議	2
	病院	ケア会議	12
	金沢保護観察所	ケア会議	2
	児童相談所	ケア会議	1
	能登中部保健福祉センター	金沢保護観察所	医療観察対象者のケア会議、同行訪問
七尾市・中能登町		七尾市・中能登町地域自立支援協議会	6
羽咋市		精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築における協議	4
七尾市		事例検討会	3
公立能登総合病院		事例検討会	1
七尾松原病院		事例検討会	1
青和病院		事例検討会	1
県立こころの病院		事例検討会	2
相談支援事業所		事例検討会	2
宿泊型自立支援施設		事例検討会	1
七尾市		同行訪問	4
羽咋市		同行訪問	2
志賀町		同行訪問	3
宝達志水町		同行訪問	9
相談支援事業所		同行訪問	11
訪問看護		同行訪問	9
みそぎ会		総会(打ち合わせ、連絡等)	1
能登中部圏域家族会連絡会		打ち合わせ、連絡等	3
メンタルヘルスポランティア		花の会(総会、連絡等)	2

保 健 所	機 関 名	支 援 内 容	回 数
能登北部保健福祉センター	奥能登地域自立支援協議会	全体会	1
	輪島市	地域ケア会議	4
	輪島市	同行訪問	23
	珠洲市	地域ケア会議	1
	珠洲市	同行訪問	1
	穴水町	同行訪問	3
	穴水町	奥能登地域自立支援協議会 穴水町連絡会議	1
	能登町	地域ケア会議	2
	能登町	同行訪問	3
	能登町	奥能登地域自立支援協議会 能登町連絡会	1
	能登町	能登町精神保健福祉連絡協議会	1
	能登町	能登町自殺対策推進連絡会	1
	県立こころの病院	ケア会議	2
	公立能登総合病院精神センター	ケア会議	6
	七尾松原病院	ケア会議	2
	ピサポート北のと	ケア会議	1
	ピサポート北のと	同行訪問	3
	相談支援キララ	同行訪問	1
	地域生活定着支援センター	ケア会議	3
	訪問看護	同行訪問	2
	地域福祉関係機関等	同行訪問	7
断酒会	合同酒害相談	8	
金沢市福祉健康センター	医療機関等	ケア会議	140
	金沢保護観察所	ケア会議	11
	家族会	総会・定例会における支援、情報提供	5
	市民活動団体	連携体制の構築、活動支援、情報提供	6
	ボランティアグループ等	ボランティア育成支援、ひきこもり長期化防止事業委託	2
	地域活動支援センター等	健康教育、連携、情報提供	3
	金沢市	自殺防止対策庁内相談担当者連絡会	1
	石川県	県民相談相互支援ネットワーク連絡会	1
	福祉健康センター	地域精神保健福祉連絡会	1
	福祉健康センター	事例検討会	3

4 集団活動

(1) 当事者活動

保健所名	回数	実人数	延人数	内 容
南加賀保健福祉センター				ひきこもり社会参加復帰事業(社会復帰支援教室) ボードゲーム、趣味紹介、調理、 手工芸、レクレーション、外出 等
石川中央保健福祉センター				
能登中部保健福祉センター	11	2	20	
能登北部保健福祉センター	10	1	10	
金沢市福祉健康センター				

(2) 家族教室

保健所名	回数	実人数	延人数	内 容
南加賀保健福祉センター	1	22	22	うつ病家族教室
	1	21	21	依存症家族教室
石川中央保健福祉センター	6	4	7	ひきこもり家族教室(座談会、個別相談)
能登中部保健福祉センター	12	5	25	ひきこもり家族交流会
能登北部保健福祉センター	1	14	37	ひきこもり家族教室(講演会)
	2	22		ひきこもり家族教室(講演会の録画配信)
	1	2		ひきこもり家族交流会
金沢市福祉健康センター				

5 こころの健康センター貸出しDVD一覧

分類	番号	題名	(時間)	対象者	内容
児童	2113	障害のある子ども達に読書の楽しみを マルチメディアDAISY書籍 CD1	284	児童	「ゴーゴーもるもくん」「恐竜あいうえお」 「まちをつくるじどうしゃ」他5編
	2114	障害のある子ども達に読書の楽しみを マルチメディアDAISY書籍 CD3	336	児童	日本の昔話17編、他2編
	2115	「交通事故で家族を亡くした子どもの支 援」に関するシンポジウム基調講演 子ど もと死 ―その理解と支援―	52	一般	制作・著作：内閣府
こころの健康	2234	自殺対策マニュアル		一般	地域や職場等の現場で自殺対策に取り組む従事者のために
	2235	統合失調症の人の回復力を高める①回復力 を高める接し方	95	一般	統合失調症の症状、治療、再発予防について基 本的な講義
	2236	統合失調症の人の回復力を高める②ドラマ で学ぶ回復力を高める会話	85	一般	ご本人との具体的なコミュニケーションについ て実際のやりかたを学ぶ
	2237	統合失調症の人の回復力を高める③家族の SSTの進め方	45	一般	病気のご本人とのよりよいコミュニケーション について家族が集まって考える。
	2238	こころの病気を学ぶ授業～統合失調症～		一般	2008年普及活動及び授業実施報告
	2239	眠れなくなった父さんヒツジ	30	一般	うつ病の人の94%に「睡眠障害」があると報告 されています。
	2240	こころのサインに気づいたら ～悩んでいる人にあなたができること～	11	一般	悩んでいる人との向き合い方について。
	2241	こころのサインに気づいたら ～悩んでいる人との向き合い方について～	172	一般	悩んでいる人との向き合い方について。
	2242	こころのサインに気づいたら ～ゲートキーパー養成研修用DVD～	91	一般	ゲートキーパー養成研修用DVD
	2243	こころのサインに気づいたら ～ゲートキーパー養成研修用DVD～（被災地対応編）	152	一般	ゲートキーパー養成研修用DVD
	2244	こころのサインに気づいたら ～ゲートキーパー養成研修用DVD～（講義編・資料編）	91	一般	ゲートキーパー養成研修用DVD
	2245	スッキリ睡眠でイキイキと	36	一般	睡眠の基礎知識について。
	2246	睡眠保健指導No. 1	23	保健指導者	睡眠保健指導の意義と重要性について。
	2247	睡眠保健指導No. 2	25	保健指導者	睡眠保健指導の具体的な方法について。
	2248	こころのサインに気づいたら～ゲートキーパー 養成研修用DVD～（地域対応編・心得編）	144	一般	ゲートキーパー養成研修用DVD
	2249	NHK厚生文化事業団福祉ビデオシリーズ うつ病 第1巻 うつ病って何だろう	70	一般	うつ病と付き合っていくために知っておきたい 大切な事柄について。
	2250	NHK厚生文化事業団福祉ビデオシリーズ うつ病 第2巻 うつと生きる	104	一般	うつとともに生きてきたある会社員の17年間の 葛藤の軌跡。
2251	NHK厚生文化事業団福祉ビデオシリーズ うつ病 第3巻 ふたたび職場へ	82	一般	神奈川県川崎市にある武田病院のリワークプロ グラムを紹介。	

分類	番号	題名	(時間)	対象者	内容
こころの健康	2252	平成19年度 いしかわ夢広場 3	59	児童	平成19年度に放送した「心の教育」ラジオ広報番組「いしかわ夢広場」の中から、子どもたちに親しみやすいお話を6編収録。
	2254	スポーツ祭東京2013精神障害者フットサル		一般	精神障害者のフットサル大会。
	2255	石川県ゲートキーパーDVDかけがえのない命をまもるためにあなたもゲートキーパー	18	一般	ゲートキーパーの役割について。
	2256	うつ病者の社会的支援のための客観的指標・運動プログラムの開発～医療モデルからソーシャルモデルへ～	39	専門職	立教大学コミュニティ福祉研究所の研究記録。
	2257	ひきこもりからの回復 全三巻	236	一般	「ひきこもり」の理解と回復の支援について
精神保健	2446	コートに輝く笑顔と汗	35	一般	精神障害者バレーボール全国大会の模様を紹介。
	2447	ピアカウセリングセミナー基礎編シリーズ	284	一般	ピアカウセリングを共に学ぶ仲間づくり。
	2453～2456	N(ネガティブ)からP(ポジティブ)へのすすめ～東尋坊からのメッセージ～(パート1～9)	101	一般	人生相談を受けた時に会話した内容。①10分②9分③15分④13分⑤15分⑥13分⑦9分⑧14分⑨3分
	2457	摂食障害者の自助・ピアサポートグループNABA 活動紹介映像 映像版「いいかげんに生きよう」	20	一般	活動内容や摂食障害を経験したメンバーのメッセージなど。
	980	摂食障害 理解と回復のために	203	一般	第1巻 摂食障害かなと思ったら(53分) 第2巻 家族・支援者の皆さんへ(60分) 第3巻 経験者に聞く 回復までの道のり(90分)
依存症関連	2538	出所後の道しるべ ～薬物を使わない新たな人生に向かって～	62	一般	ダルクの紹介と出所後の流れについて。
	2539	ダメ。ゼッタイ。薬物乱用は脳を破壊する！	15	一般	薬物乱用防止の普及啓発。
	2540	“依存症”からの回復 第1巻 “依存症”とは何か	59	一般	依存症の正しい理解について。
	2541	“依存症”からの回復 第2巻回復への道	67	一般	依存症からの回復のために必要な支援について
	2542	“依存症”からの回復 第3巻家族を支える	63	一般	家族が陥りがちな悪循環の構造を読み解き、回復への道を探る。
	2543	あなたの大切な人とお酒の関係 アルコール依存症の理解と対応	24	一般	アルコール依存症の理解とその対応について(保健所等での相談対応の手法等)
	2544	アルコール依存症に対する家族の効果的な対応の仕方	64	一般	アルコール依存症に対する家族の対応について。

分類	番号	題名	(時間)	対象者	内容
心理・面接技法	2635	ひきこもり完全脱出マニュアル 第3講 思春期対応編 精神的症状とひきこもり	45	一般	強迫性障害のお子さんを抱えた家族を事例に、ひきこもりに多い各種精神症状とその対応について、再現ドラマをもりこみながら斉藤環氏が解説。
	2636	ひきこもり①ひきこもりに対する正しい理解	7	一般	2003年から2004年にかけてNHKで放送された『ひきこもりサポートキャンペーン』の内容をもとに制作された。
	2637	ひきこもり②支援の実践にあたって	43	一般	同上
	2638	ひきこもり③検証・支援現場～民間編～	39	一般	同上
	2639	ひきこもり④検証・支援現場～公的機関編～	35	一般	同上
	2640	実録・家族療法1巻「心理教育アプローチ」に基づく家族面接	61	一般	3人のセラピストによる家族面接ドキュメント
	2641	実録・家族療法2巻「力動的精神療法」に基づく家族面接	68	一般	3人のセラピストによる家族面接ドキュメント
	2642	実録・家族療法3巻「システムアプローチ」に基づく家族面接	87	一般	3人のセラピストによる家族面接ドキュメント
	2644	認知行動療法 ベーテる式	95	一般	べてるの家の幅広い活動を（認知行動療法）という視点から切り取って紹介。